

WebSphere Application Server V8.5

通常 WAS 版

修正パッケージ(Fix Pack)

適用ガイド

V1.0

2012 年 11 月
日本アイ・ビー・エム株式会社
ソフトウェア事業

目次

1. はじめに.....	2
2. IBM Installation Manager の更新.....	5
3. Fix Pack のインストール方法①	9
4. Fix Pack のインストール方法②	21
5. Fix Pack インストール後の確認	40
6. Fix Pack のアンインストール	45
7. Fix Pack アンインストール後の確認	51

変更履歴

2012/11/26	初版
2016/01/22	Fix Pack インストール時の注意事項として、Java セキュリティ・ポリシー・ファイルのバックアップを追加

1. はじめに

WebSphere Application Server (以下WAS) では、定期的に修正パッケージ (Fix) を、以下の製品サポート Web サイトで公開しています。

<http://www.ibm.com/software/webervers/appserv/was/support/>

本ガイドは、WAS V8.5 の修正パッケージ (Fix Pack) の導入を手順書化したものです。

1-a. WAS V8.5 のバージョン表記について

WAS V8.5 では、バージョンを「**V8. x. y. z**」というように、4 つの数字の組み合わせで表記します。

各数字は、下表の Fix レベルを表します。また、単体の個別 Fix のことを単に“Fix”、あるいは“Interim Fix”、“iFix”と呼びます。

Fix レベル	表記例	修正 (Fix) の内容
Release 「x」	V8.5	大きな機能の追加や変更。 (リリースアップにはパスポート・アドバンテージ契約が必要)
Refresh Pack 「y」	N/A	機能の追加や前提条件の更新を含み、その以前に出ている Refresh Pack を含んだ修正の集合。(V5.0/V5.1 では、Fix Pack と呼ばれていたもの。) V6.1 から Refresh Pack はリリースされなくなりました。
Fix Pack 「z」	V8.5.0.1	複数の Fix がまとめて定期的に公開されたもの。その以前に出ている Fix Pack を含みます。
Fix	V8.5.0.1 + PQ00000	「PQ00000」や「PK00000」などの個別の Fix。 “Interim Fix”、“iFix”とも表記されます。

例えば、V8.5.0.1 とは、V8.5 を導入後、Fix Pack1 を適用した環境のことを指します。

本ガイドでは、“Fix Pack”の適用手順について記述します。

1-b. 本ガイドで修正パッケージを適用するにあたって

WebSphere Application Server (以下WAS) V8 からは、WAS のインストールと Fix の導入が IBM Installation Manager というツールに一元化されました。WAS のインストールだけでなく、Fix を導入したり、既に導入済みの Fix の情報を参照、あるいは削除したりする事が可能です。

但し、適用する Fix の前提条件等もありますので、適用時には各 Fix の Readme もご参照の上、適用をお願いします。

本文中で使用されている <WAS_ROOT> とは、WAS のインストール・ディレクトリーのことであり、各プラットフォームのデフォルトは、以下のディレクトリーとなります。

[AIX 環境]	:/usr/IBM/WebSphere/AppServer
[Linux/Solaris/HP-UX 環境]	:/opt/IBM/WebSphere/AppServer

[Windows XP/2003 環境]	:C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere¥AppServer
[Windows 7 環境]	:C:¥IBM¥WebSphere¥AppServer
[Windows 2008 環境]	:
－管理ユーザーを選択してインストールした場合 :	
	C: ¥Program Files¥IBM¥WebSphere¥AppServer
－単一ユーザーを選択してインストールした場合 :	
	C:¥Users¥User名¥WebSphere¥AppServer

また<IHS_ROOT>とは、IHSのインストール・ディレクトリーのことであり、各プラットフォームのデフォルトは、以下のディレクトリーとなります。

[AIX 環境]	:/usr/IBM/HTTPServer
[Linux/Solaris/HP-UX 環境]	:/opt/IBM/HTTPServer
[Windows XP/2003 環境]	:C:¥Program Files¥IBM¥HTTPServer
[Windows 7 環境]	:C:¥IBM¥HTTPServer
[Windows 2008 環境]	:
－管理ユーザーを選択してインストールした場合 :	
	C:¥Program Files¥IBM¥HTTPServer
－単一ユーザーを選択してインストールした場合 :	
	C:¥Users¥User名¥IBM¥HTTPServer

また<Plugin_ROOT>とは、Web Server Plug-inのインストール・ディレクトリーのことであり、各プラットフォームのデフォルトは、以下のディレクトリーとなります。

[AIX 環境]	:/usr/IBM/WebSphere/Plugins
[Linux/Solaris/HP-UX 環境]	:/opt/IBM/WebSphere/Plugins
[Windows XP/2003 環境]	:C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere¥Plugins
[Windows 7 環境]	:C:¥IBM¥WebSphere¥Plugins
[Windows 2008 環境]	:
－管理ユーザーを選択してインストールした場合 :	
	C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere¥Plugins
－単一ユーザーを選択してインストールした場合 :	
	C:¥Users¥User名¥IBM¥WebSphere¥Plugins

また<IM_DATA_ROOT>とは、IBM Installation Managerのアプリケーション・データ・ロケーションのことであり、各プラットフォームのデフォルトは、以下のディレクトリーとなります。

[AIX/Linux/Solaris/HP-UX 環境]	:/var/ibm/InstallationManager
[Windows XP/2003 環境]	:C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥IBM¥Installation Manager
[Windows 7 環境]	:C:¥ProgramData¥IBM¥Installation Manager
[Windows 2008 環境]	:

—管理ユーザーを選択してインストールした場合：

C:¥ProgramData¥IBM¥Installation Manager

—単一ユーザーを選択してインストールした場合：

C:¥Users¥User名¥AppData¥Roaming¥IBM¥Installation Manager

各コマンドやツールの詳細な情報については、適用するFixのReadmeや、Infocenterを合わせてご参照ください。

また、本文中のURLおよびWebサイトの画面イメージは、2012年11月現在のものであり、将来変更される場合がありますのでご注意ください。

2. IBM Installation Manager の更新

Fix Pack の導入にあたり、まず IBM Installation Manager の更新を求められる場合があります。

1. 導入済みの IBM Installation Manager を起動します。IBMIM.sh(exe)コマンドを実行し、IBM Installation Manager を起動します。

■ Unix・Linux の場合

```
# cd <IBM Installation Manager のインストール・ディレクトリー>/eclipse  
# ./IBMIM.sh
```

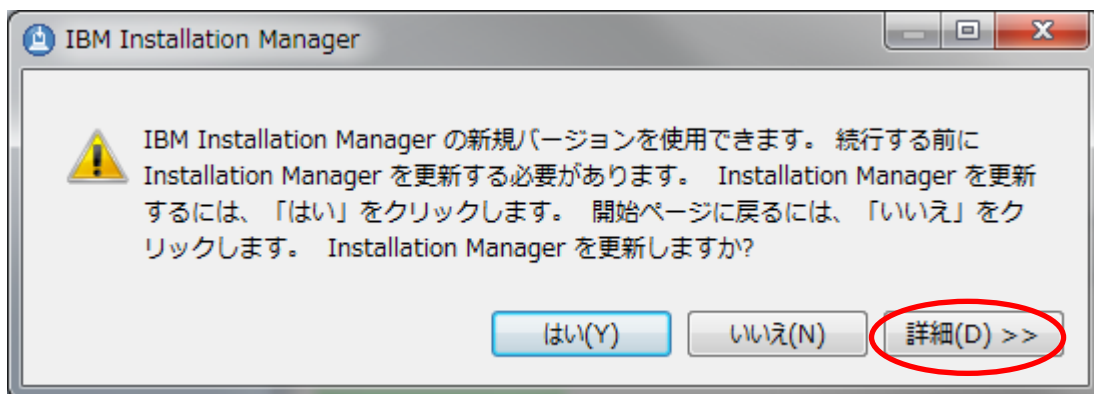
■ Windows の場合

```
> cd <IBM Installation Manager のインストール・ディレクトリー>\eclipse  
> IBMIM.exe
```

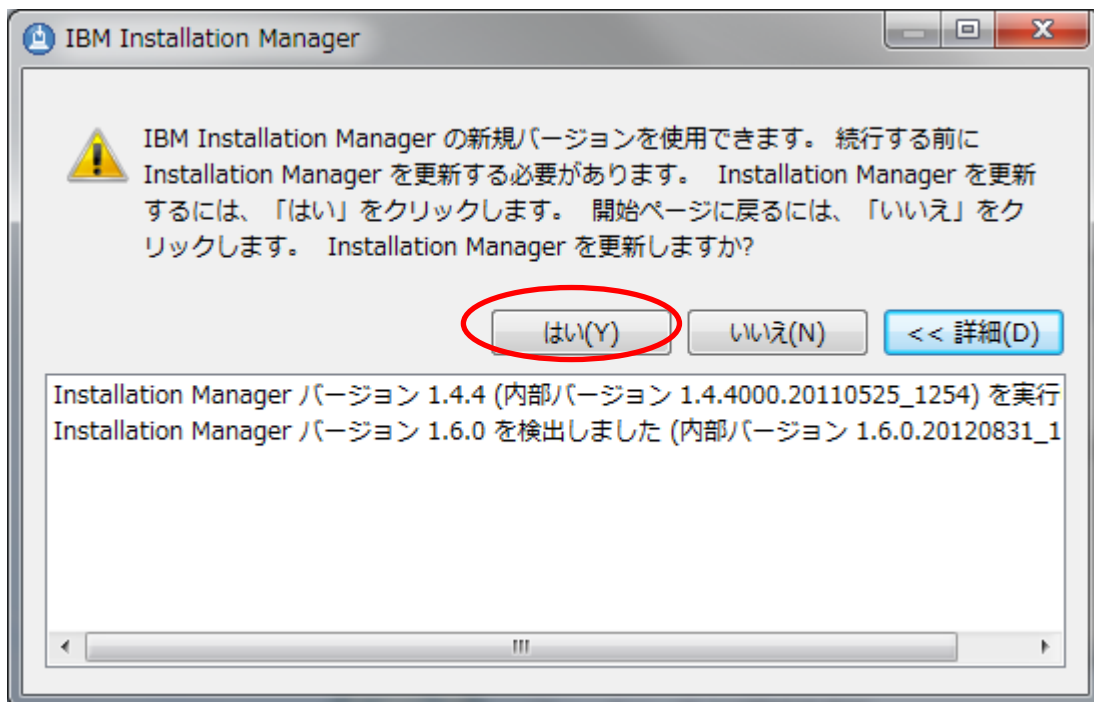
- 「スタート」>「すべてのプログラム」>「IBM Installation Manager」>「IBM Installation Manager」から起動、またはインストール・ディレクトリーにある exe クリックによる起動も可能です。



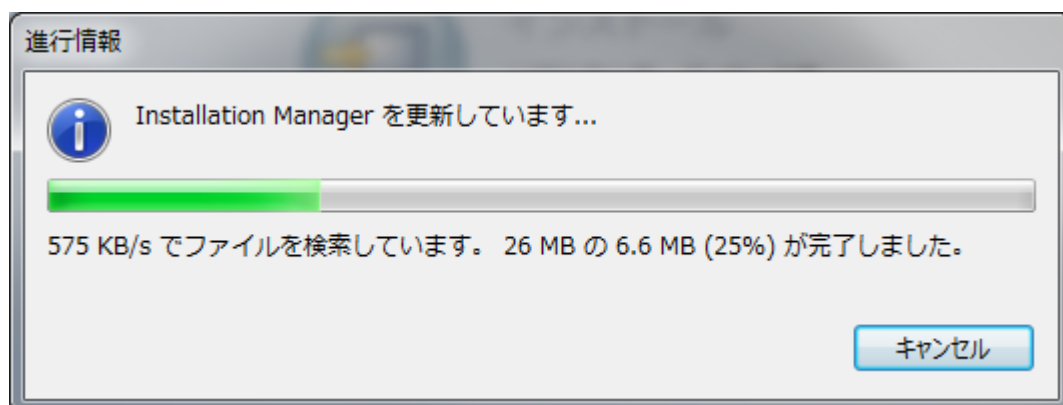
2. 「更新」ボタンを押すと、利用可能な IBM Installation Manager のアップデートがある場合にダイアログボックスが表示されます。 詳細を押すと、現在実行しているバージョンと利用可能なバージョンが表示されます。



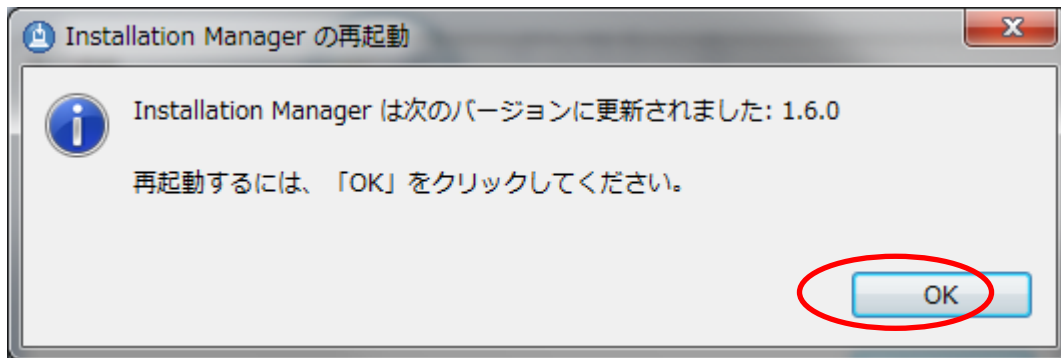
3. バージョンを確認して、「はい」をクリックします。



4. 更新が開始されます。



5. 更新の完了後、再起動をします。「OK」をクリックします。



オフラインのローカルで更新する場合の手順は以下のとおりです。

1. Fix Central から IBM Installation Manager の Fix Pack をダウンロードします。
2. Zip 形式の Fix Pack を解凍して、中に repository.config が存在することを確認します。
3. IBM Installation Manager を起動して、「設定」から「リポジトリの追加」をクリックして repository.config を指定します。手順 4 を参考にしてください。
4. 最初の画面に戻り、「更新」をクリックして更新を開始します。

詳細は以下を参照してください。

<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg24023498>

http://public.dhe.ibm.com/software/dw/jp/rational/library/common/install/im_usageguide/im_usageguide.pdf

3. Fix Pack のインストール方法①

ここでは Web ベースで IBM のリポジトリにアクセスして Fix Pack を適用する手順を紹介します。

●インストールを行う前の注意事項/推奨事項

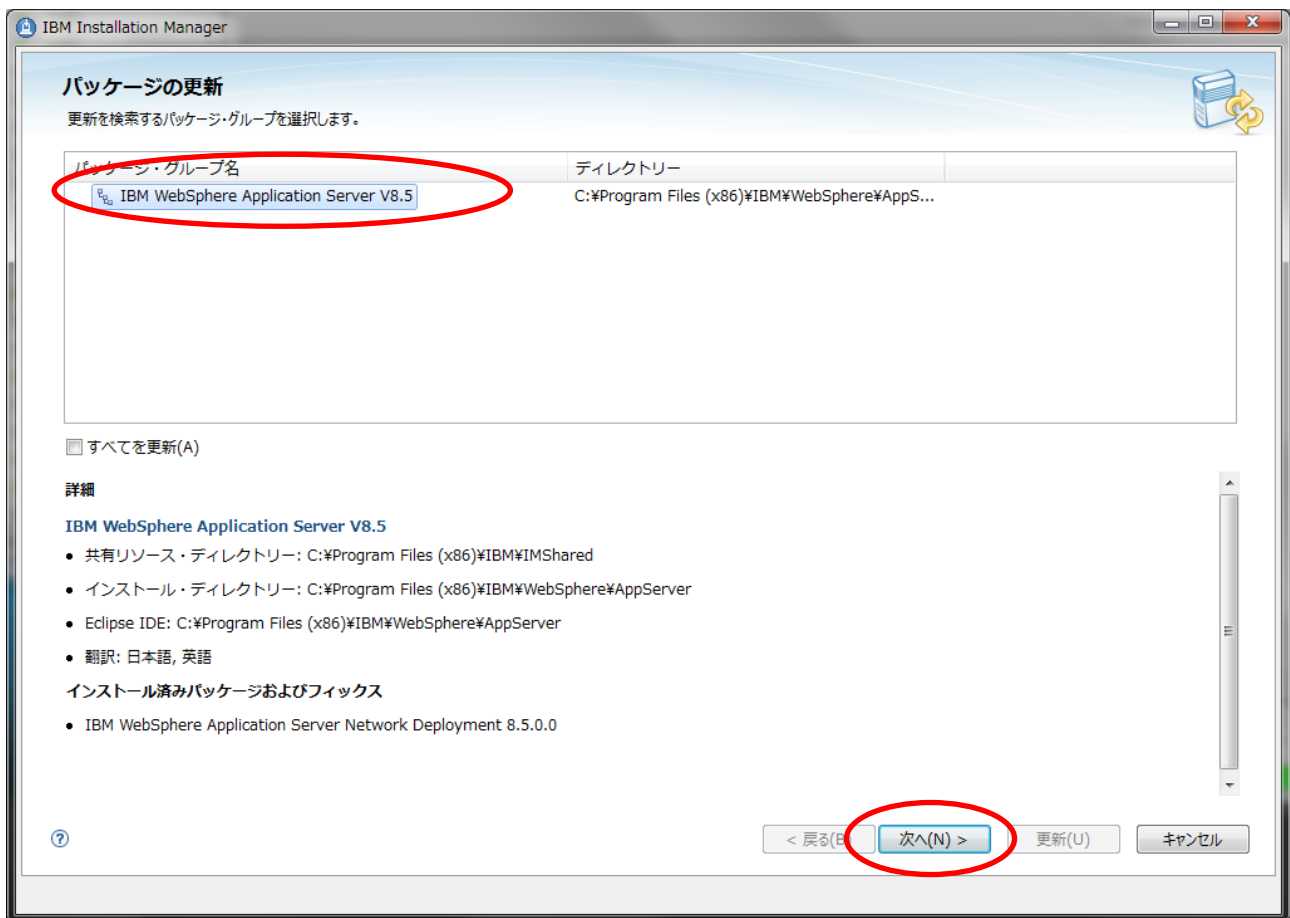
1. 導入前にすべての WAS, IHS が停止していることを確認してください。
また、WAS 以外で稼働している java プロセスについても停止する必要があります。また Network Deployment 環境の場合、Deployment Manager のプロセスから停止します。
2. AIX 環境では不要なライブラリをアンロードするため、root で slibclean を実行してください。
3. ファイルシステムのスペースに不足がないことを確認してください。
 - ・ [AIX] : /tmp、/usr に各々約 600M
 - ・ [Linux および AIX 以外の UNIX ベースのプラットフォーム] : /tmp、/opt に各々約 600M
(上記のプラットフォームにおける /usr、/opt 配下に必要とされるスペースは WAS のインストール・ディレクトリーに依存します。インストール・ディレクトリーを変更している場合は、そのファイルシステムのスペースを確保してください。)
 - ・ [Windows] : インストールを実行するディスクに約 1.2GB
 - ・ バックアップ・ファイル用として、バックアップ・ディレクトリーに 1~1.7GB (Fix Pack と同じサイズ)
4. WebSphere Application Server Network Deployment (WAS ND) を導入されているお客様は、Deployment Manager の Fix レベルが AppServer より高く(新しく)なければなりません。WAS ND を導入されているお客様は、まず先に Fix を Deployment Manager へ適用し、その後、AppServer へ適用をお願いします。
5. IBM Java SDK の Fix Pack は、制限のないポリシー・ファイルと cacerts ファイルを上書きする可能性があります。Fix Pack を適用する前に、制限のないポリシー・ファイルと cacerts ファイルをバックアップして、これらのファイルを Fix Pack の適用後に再配置します。これらのファイルは <WAS_ROOT>%java%re%lib%security ディレクトリーにあります。
6. テスト環境下での適用確認を 実行してからの本番環境での適用を推奨します。
7. Fix 適用前に Back-up などを取り、問題発生時にすばやく対処できるよう対策をとることを推奨します。

- Fix Pack 適用にはウィザード(GUI)モードとサイレント(CUI)モードがあります。本ガイドでは、GUI モードのインストール手順を示します。

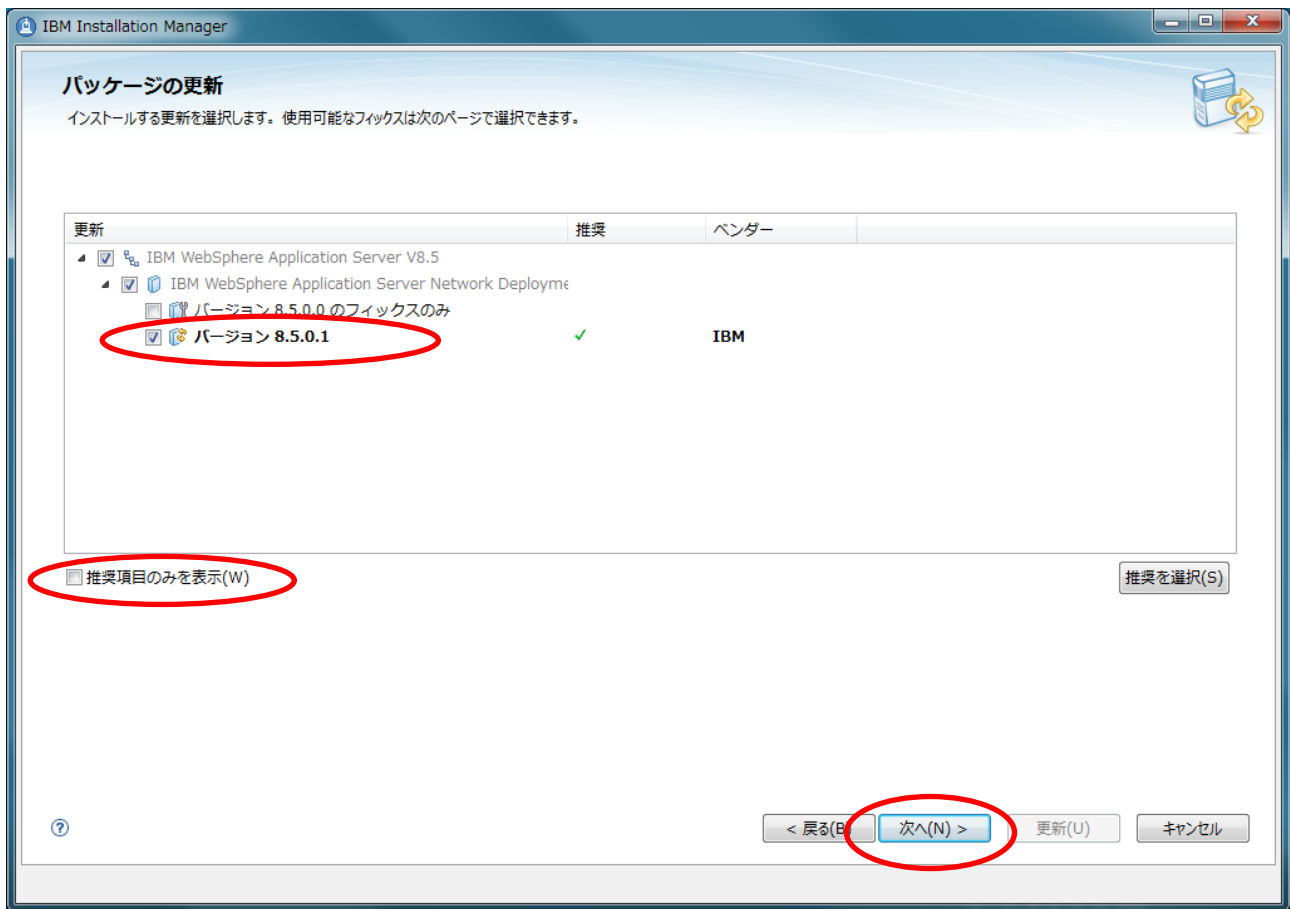
1. 最初の画面に戻ります。「更新」をクリックします。



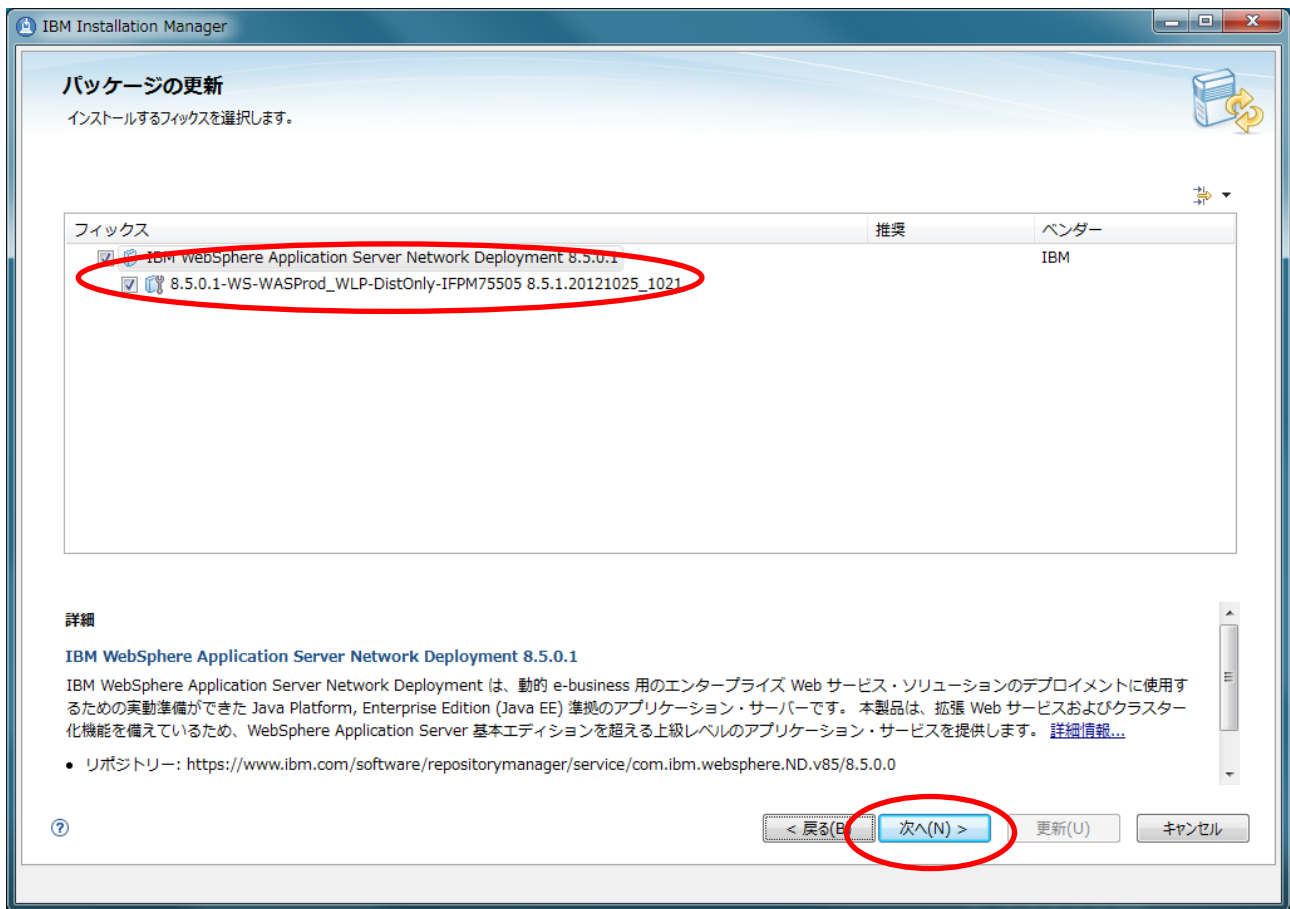
2. WAS に Fix Pack を導入します。「IBM WebSphere Application Server V8.5」または「IBM WebSphere Application Server Network Deployment V8.5」を選択して、「次へ」をクリックします。



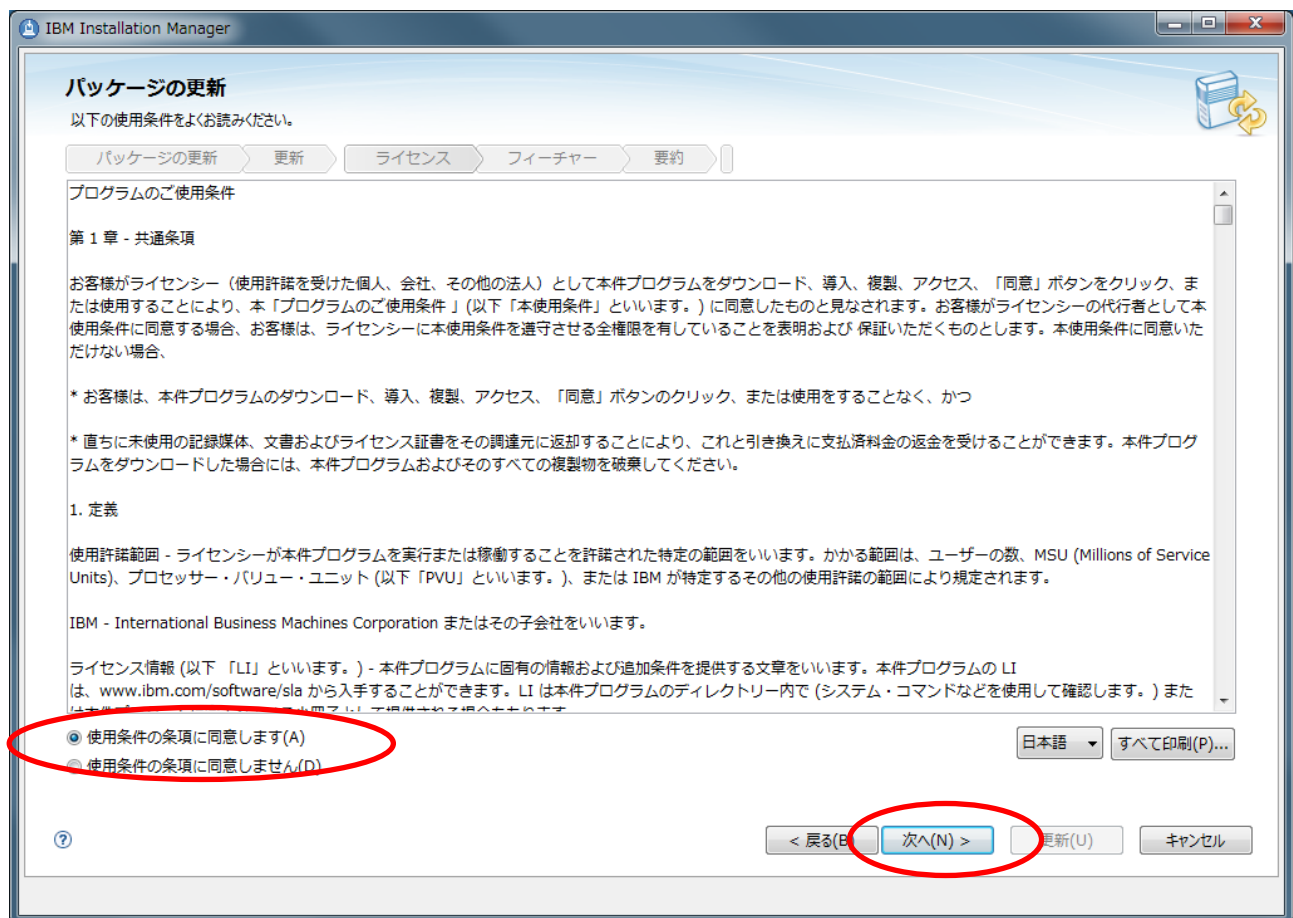
3. インストール可能なパッケージが表示されます。「推奨項目のみ表示」のチェックを外すことで現環境に適用可能なすべてのパッケージがリストされます。ここでは、「バージョン 8.5.0.1」を選択して、「次へ」をクリックします。



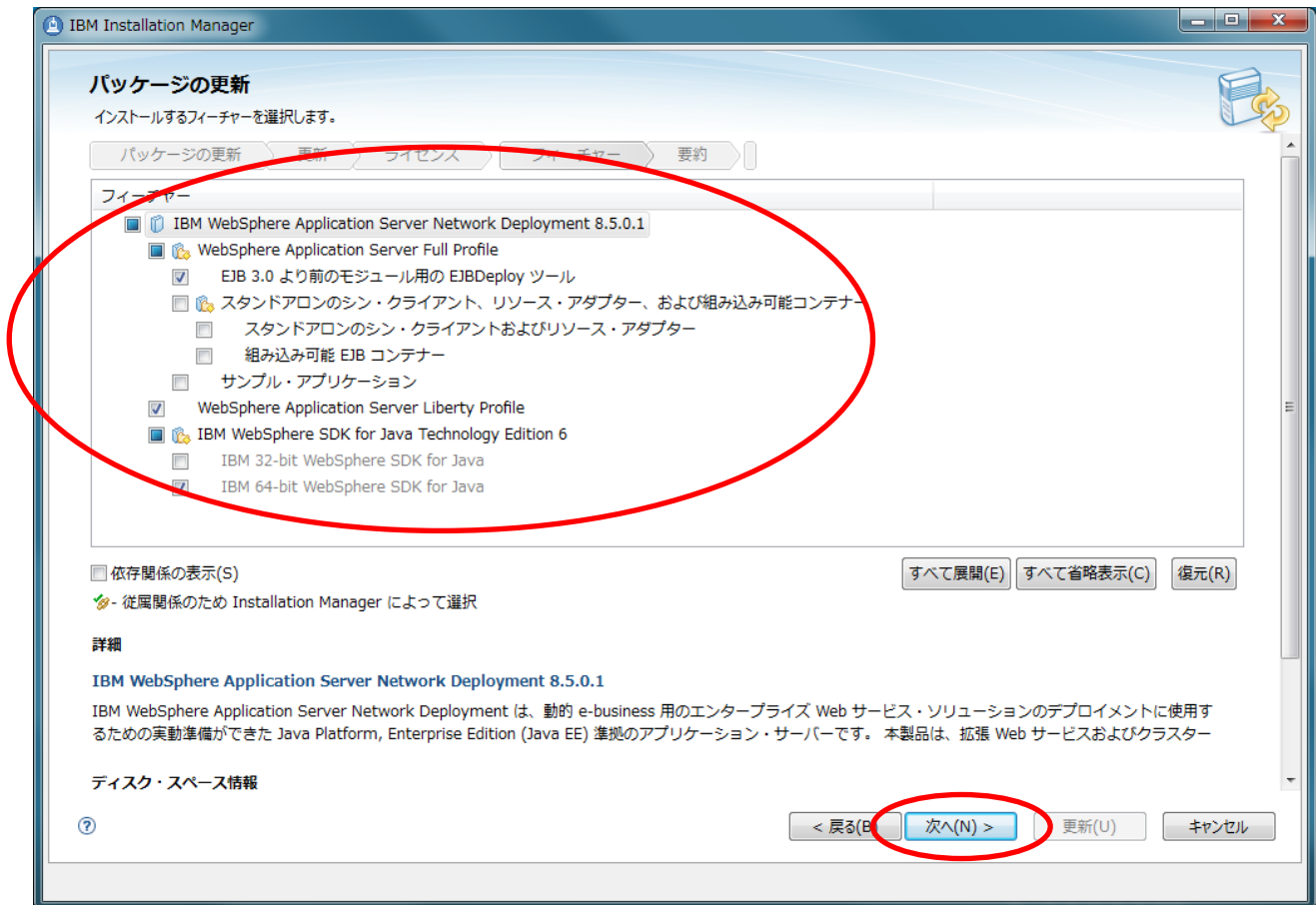
4. インストール可能な個別 Fix がリストされます。(適用可能な Fix がない場合にはこのページは表示されません)適用したい個別 Fix を選択して、「次へ」をクリックします。



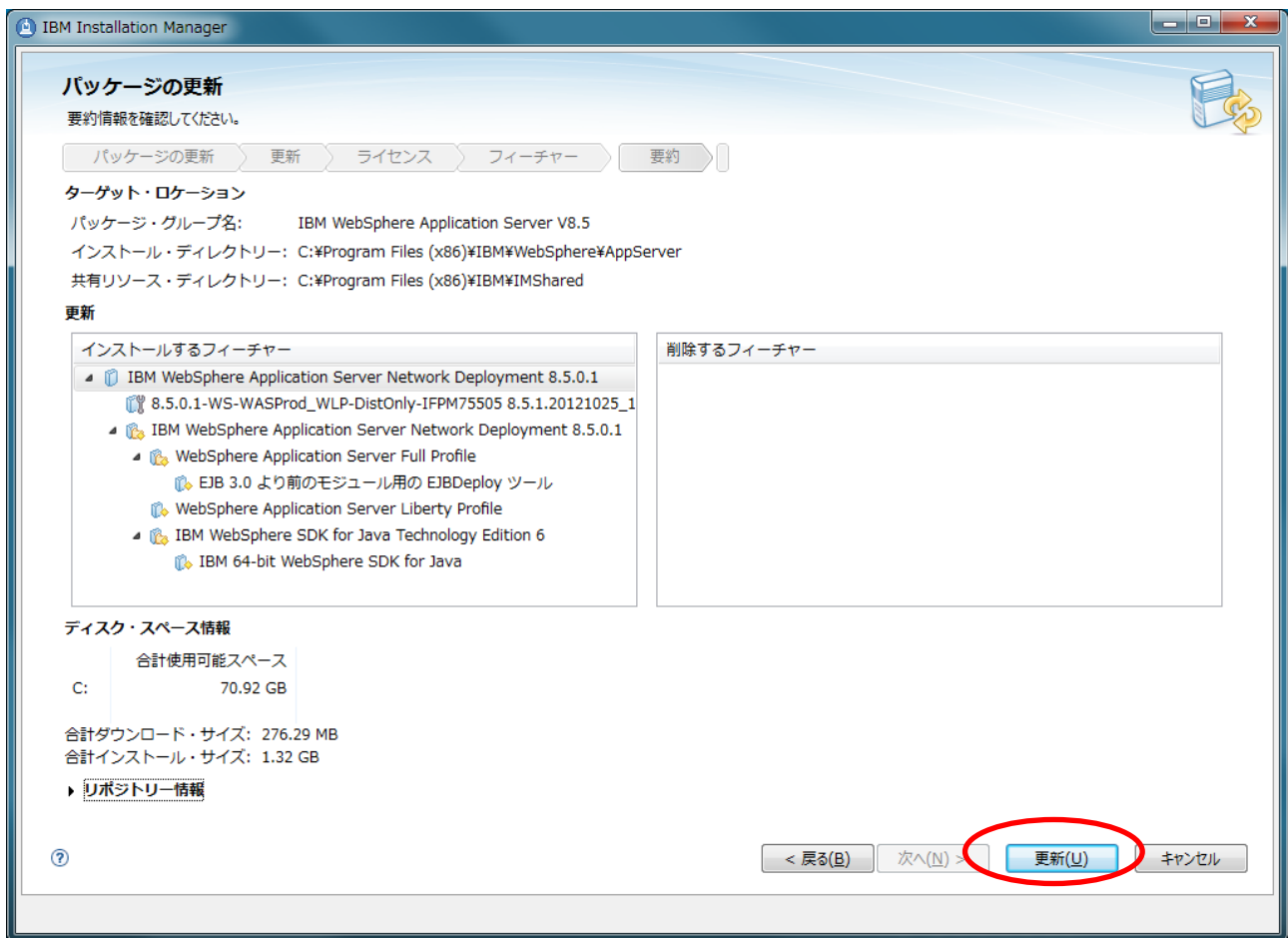
5. 「使用条件の条項に同意します」にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。



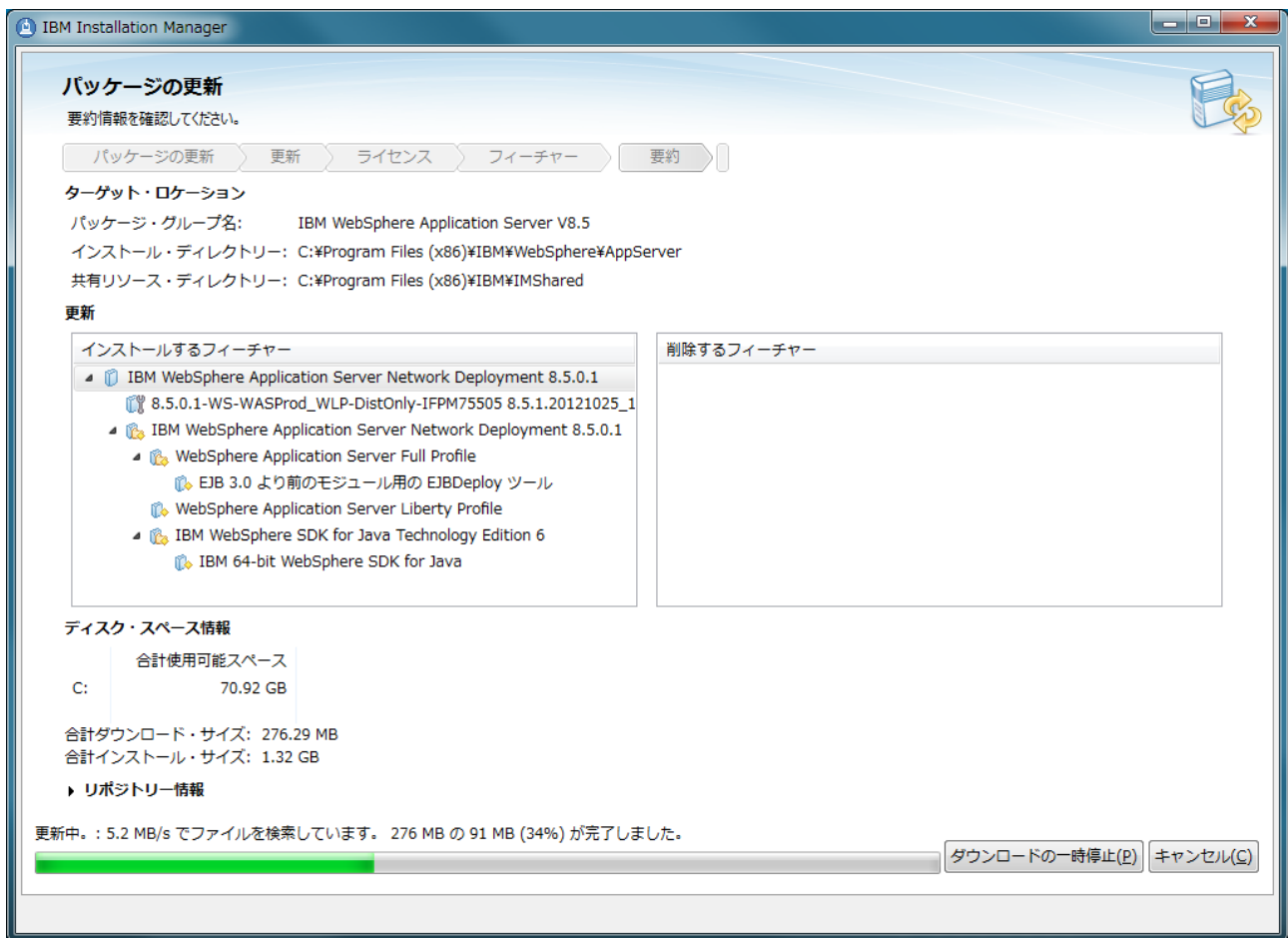
6. Fix Pack を適用するフィーチャーを選択します。インストールされているフィーチャーを選択するなど、環境に合わせてフィーチャーを選択してください。



7. 更新内容が表示されます。内容を確認して、「更新」をクリックします。



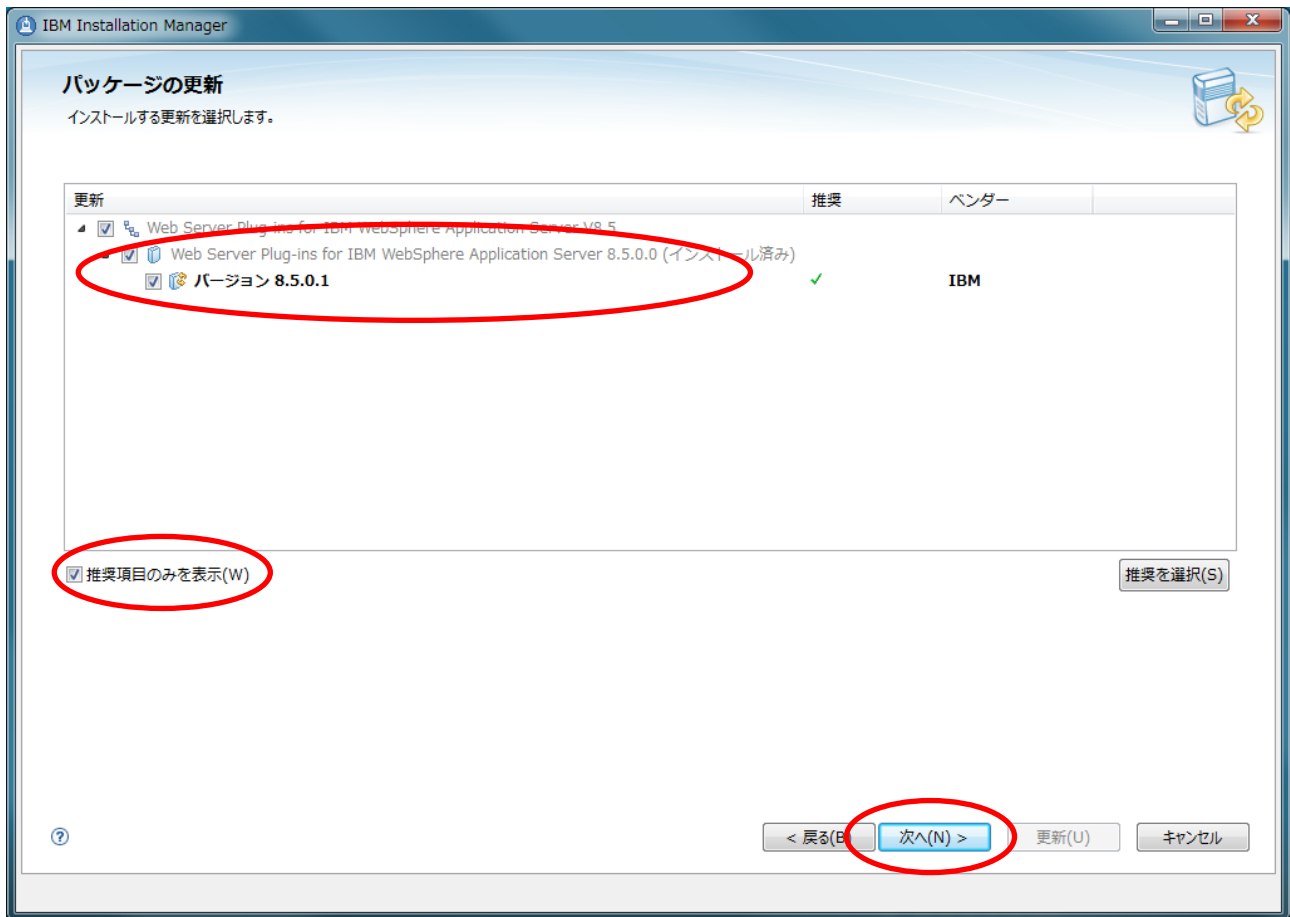
8. Fix Pack の適用が開始されます。



9. WAS への Fix Pack 適用が完了しました。「終了」をクリックします。

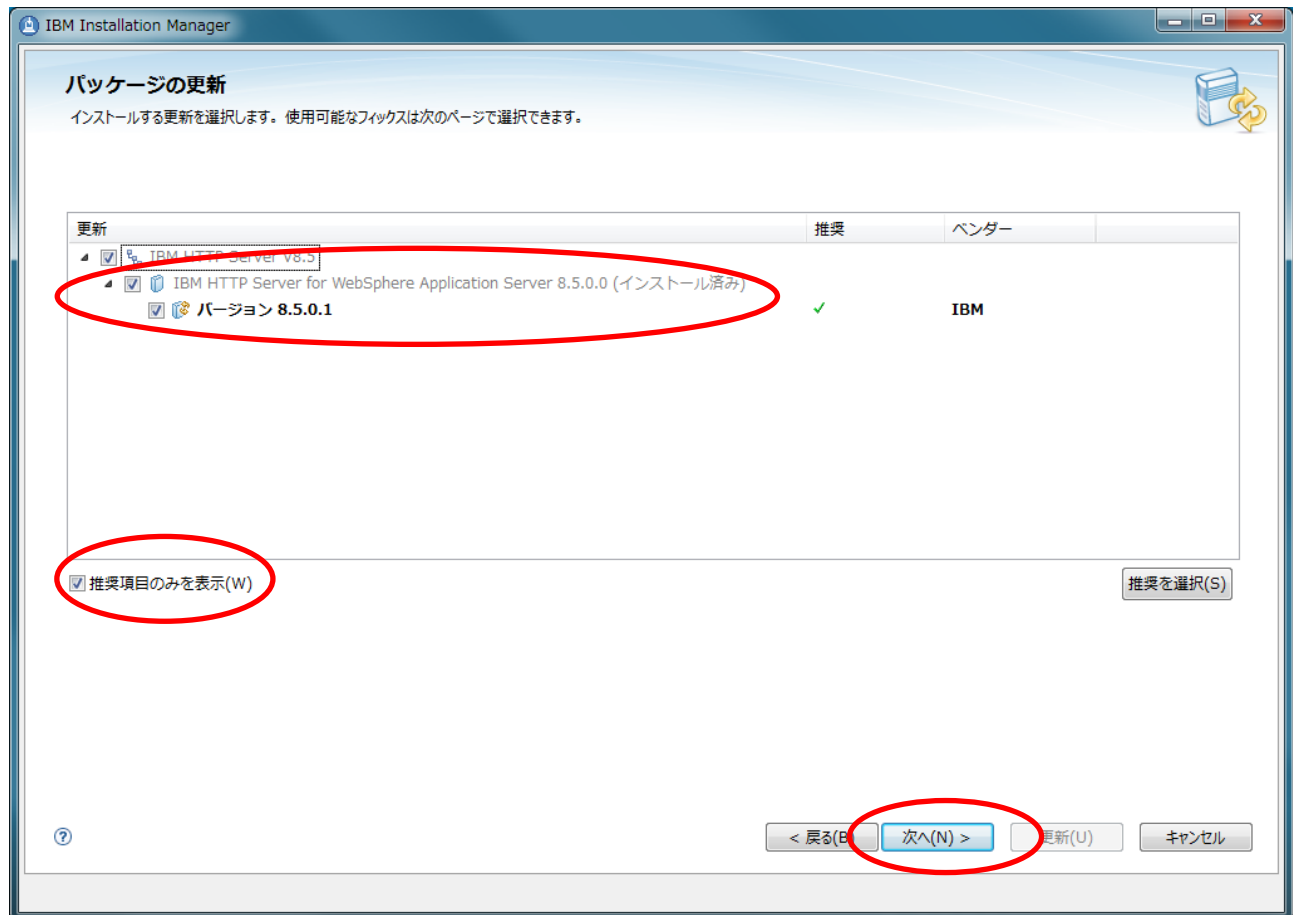


10. Web Server Plug-in が導入されている場合は、別途 Fix Pack を適用します。3 の画面で、「Web Server Plug-ins for IBM WebSphere Application Server 8.5.0.1」を選択して、「次へ」をクリックします。適用したい Fix が表示されない場合には、「推奨項目のみ表示」のチェックをはずした後、ご確認ください。



11. 残りの手順は WAS と同様です。

12. IBM HTTP Server が導入されている場合はそちらにも Fix Pack を適用します。3 の画面で「IBM HTTP Server for WebSphere Application Server 8.5.0.1」を選択して、「次へ」をクリックします。適用したい Fix が表示されない場合には、「推奨項目のみ表示」のチェックをはずした後、ご確認ください。



13. 残りの手順は WAS、Web Server Plug-in と同様です。

その他のコンポーネントが導入されている場合には必要に応じて同様の手順で Fix Pack を適用します。

以上で、Web ベースで IBM リポジトリから Fix Pack を適用する手順を紹介いたしました。

4. Fix Pack のインストール方法②

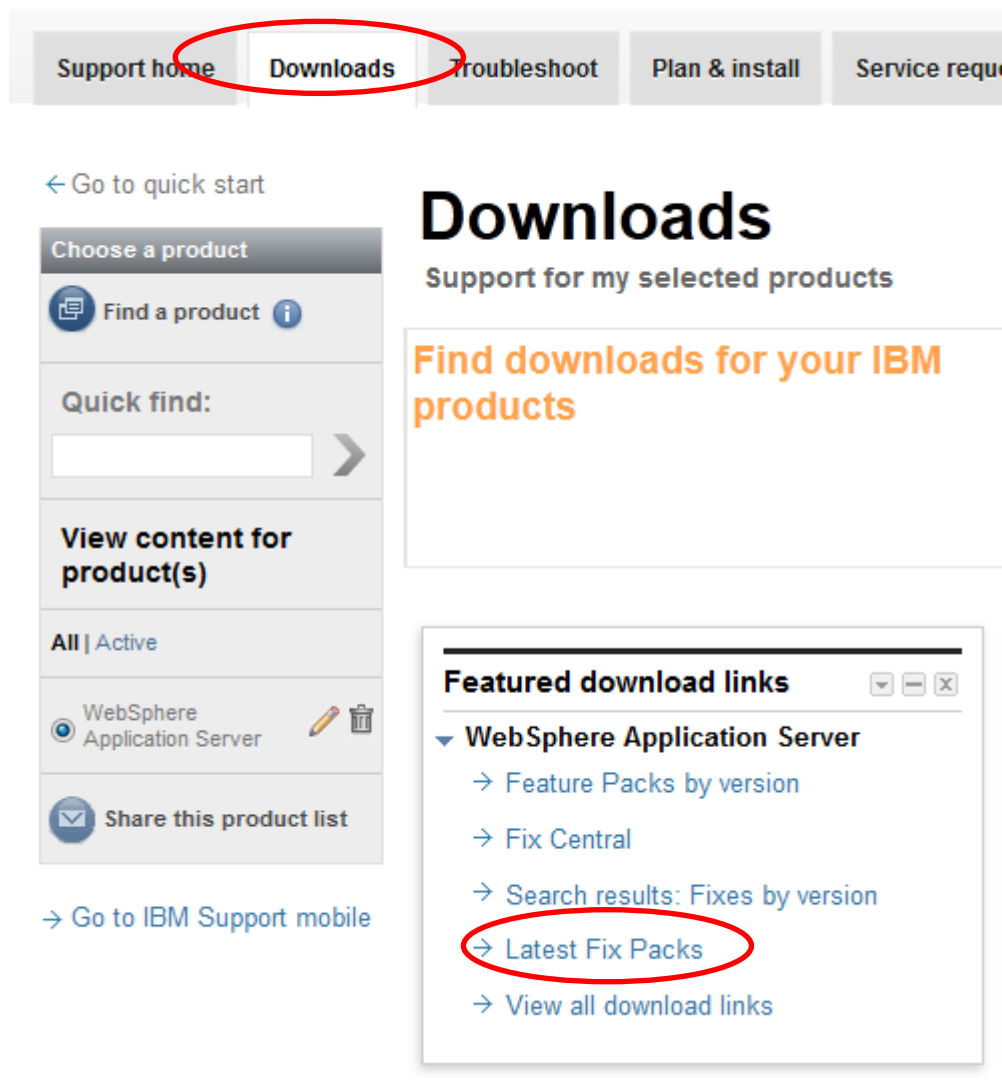
ここでは Fix Central からローカルにダウンロード済みの Fix Pack を適用する手順を紹介します。

4-a. Fix Pack のダウンロード

Fix Pack は、製品サポート・サイトよりダウンロードして導入します。ダウンロードには IBM ID が必要です。

1. 製品のサポート・サイトで、最新 Fix Packs を調べます。下記 Web サイトにアクセスし、「ダウンロード」の「Latest Fix Packs」をクリックしてください。

<http://www.ibm.com/software/webervers/appserv/was/support/>



2. 各バージョンの最新 Fix 情報一覧が表示されます。「Version 8.5.0.1」をクリックすると、ダウンロードページに移動します。

Latest fix packs for WebSphere Application Server

Product documentation

Abstract

A list of the latest available fix packs for IBM® WebSphere® Application Server releases (Base, Express, Network Deployment).

Fix packs for IBM HTTP Server V7.0, 6.1, and V6.0 are distributed with most corresponding WebSphere Application Server V7.0, 6.1, and V6.0 releases. For the latest IBM HTTP Server fix pack, also view the related information link below.

Content

Latest Fix Pack for WebSphere Application Server V8.5

→ [8.5.0.1](#)

3. 適用する Fix Pack をダウンロードします。使用 OS に対応した Fix Pack をクリックするとダウンロードページに進みます。「今すぐダウンロード」をクリックします。V7.0 では、Java、AppServer、Client、Plug-in、IHS と分かれていましたが、V8.x よりプラットフォームに応じてまとめて提供されるようになりました。ダウンロード対象は、8.5.0-WS-WAS-FP0000001-part1.zip、part2 が WAS 本体、8.5.0-WS-WASSupplements-FP00000001-part1.zip、part2 が IHS などを含む Supplement として必要になります。

Download package

Platform	Download	Download Links (Fix Central)
Distributed	Application Server V8.5.0.1 local repository ZIP Files containing Base, Express, ND, NDDMZ, Java SDK	8.5.0-WS-WAS-FP0000001-part1.zip 8.5.0-WS-WAS-FP0000001-part2.zip
Distributed	Supplements V8.5.0.1 local repository ZIP Files containing Application Client, Web server plug-ins, Pluggable Application Client, IBM HTTP Server, Java SDK	8.5.0-WS-WASSupplements-FP0000001-part1.zip 8.5.0-WS-WASSupplements-FP0000001-part2.zip
Distributed	WebSphere Customization Toolbox V8.5.0.1 local repository ZIP File	8.5.0-WS-WCT-FP0000001.zip
IBM i	IBM Web Enablement for IBM i V8.5.0.1 local repository ZIP File	8.5.0-WS-WEBENAB-FP0000001.zip
zOS	IBM HTTP Server for zOS V8.5.0.1 local repository ZIP File	8.5.0-WS-IHS-OS390-FP0000001.zip
zOS	Web server plug-ins for zOS V8.5.0.1 local repository ZIP File	8.5.0-WS-PLG-OS390-FP0000001.zip
zOS	Application Server for zOS V8.5.0.1 local repository ZIP File	8.5.0-WS-WAS-OS390-FP0000001.zip
All Platforms	IBM WebSphere SDK Java Technology Edition (Optional) V7.0.2.0	7.0.2.0-WS-IBMWASJAVA-part1.zip 7.0.2.0-WS-IBMWASJAVA-part2.zip

- ☐ 21. フィックスバック: [8.5.0-WS-WASSupplements-FP0000001-part2](#) → 2012/10/29
 8.5.0-WS-WASSupplements-FP0000001-part2 for distributed platforms.
[この Fix に関連する製品および製品群の推奨コメントの追加の情報*](#)
[閲覧](#)
- ☐ 22. フィックスバック: [8.5.0-WS-WASSupplements-FP0000001-part1](#) → 2012/10/29
 8.5.0-WS-WASSupplements-FP0000001-part1 for distributed platforms.
[この Fix に関連する製品および製品群の推奨コメントの追加の情報*](#)
[閲覧](#)
- ☐ 23. フィックスバック: [8.5.0-WS-WAS-OS390-FP0000001](#) → 2012/10/29
 IBM WebSphere Application Server Fix Pack 8.5.0.1 for zOS platform.
[この Fix に関連する製品および製品群の推奨コメントの追加の情報*](#)
[閲覧](#)
- ☐ 24. フィックスバック: [8.5.0-WS-WAS-FP0000001-part2](#) → 2012/10/29
 IBM WebSphere Application Server Fix Pack 8.5.0.1 for distributed platforms.
[この Fix に関連する製品および製品群の推奨コメントの追加の情報*](#)
[閲覧](#)
- ☐ 25. フィックスバック: [8.5.0-WS-WAS-FP0000001-part1](#) → 2012/10/29
 IBM WebSphere Application Server Fix Pack 8.5.0.1 for distributed platforms.
[この Fix に関連する製品および製品群の推奨コメントの追加の情報*](#)
[閲覧](#)

4. Fix Pack ファイルのダウンロード・ウィンドウが表示されますので任意のディレクトリーに保管します。

- WAS V8.5 の Fix Pack ファイルは、Zip 形式で提供されています。

(例: 8.5.0-WS-WAS-FP0000001-part1.zip)

5. Zip ファイルを解凍し、repository.config ファイルがあることを確認します。WAS 本体の Fix Pack については、2 つの Zip ファイル (8.5.0-WS-WAS-FP0000001-part1.zip と 8.5.0-WS-WAS-FP0000001-part2.zip) を、必ず同じディレクトリーに解凍します。

次のステップでは、導入する Fix を指定する際に、この repository.cofing を指定します。

以上で Fix Pack のダウンロードは完了です。

4-b. Fix Pack のインストール

●インストールを行う前の注意事項/推奨事項

1. 導入前にすべての WAS, IHS が停止していることを確認してください。
また、WAS 以外で稼働している java プロセスについても停止する必要があります。また Network Deployment 環境の場合、Deployment Manager のプロセスから停止します。
2. AIX 環境では不要なライブラリをアンロードするため、root で slibclean を実行してください。
3. ファイルシステムのスペースに不足がないことを確認してください。
 - ・ [AIX] : /tmp、/usr に各々約 600M
 - ・ [Linux および AIX 以外の UNIX ベースのプラットフォーム] : /tmp、/opt に各々約 600M
(上記のプラットフォームにおける /usr、/opt 配下に必要とされるスペースは WAS のインストール・ディレクトリーに依存します。インストール・ディレクトリーを変更している場合は、そのファイルシステムのスペースを確保してください。)
 - ・ [Windows] : インストールを実行するディスクに約 1.2GB
バックアップ・ファイル用として、バックアップ・ディレクトリーに 1~1.7GB (Fix Pack と同じサイズ)
4. WebSphere Application Server Network Deployment (WAS ND) を導入されているお客様は、DeploymentManager の Fix レベルが AppServer より高く(新しく)なければなりません。WAS ND を導入されているお客様は、まず先に Fix を DeploymentManager へ適用し、その後、AppServer へ適用をお願いします。
5. IBM Java SDK の Fix Pack は、制限のないポリシー・ファイルと cacerts ファイルを上書きする可能性があります。Fix Pack を適用する前に、制限のないポリシー・ファイルと cacerts ファイルをバックアップして、これらのファイルを Fix Pack の適用後に再配置します。これらのファイルは <WAS_ROOT>%java%re%lib%security ディレクトリーにあります。
6. テスト環境下での適用確認を 実行してからの本番環境での適用を推奨します。
7. Fix 適用前に Back-up などを取り、問題発生時にすばやく対処できるよう対策をとることを推奨します。

- Fix Pack 適用にはウィザード(GUI)モードとサイレント(CUI)モードがあります。本ガイドでは、GUI モードのインストール手順を示します。

1. 導入済みの IBM Installation Manager を起動します。IBMIM.sh(exe)コマンドを実行し、IBM Installation Manager を起動し、「更新」をクリックします。

■ Unix・Linux の場合

```
# cd <IBM Installation Manager のインストール・ディレクトリー>/eclipse  
# ./IBMIM.sh
```

■ Windows の場合

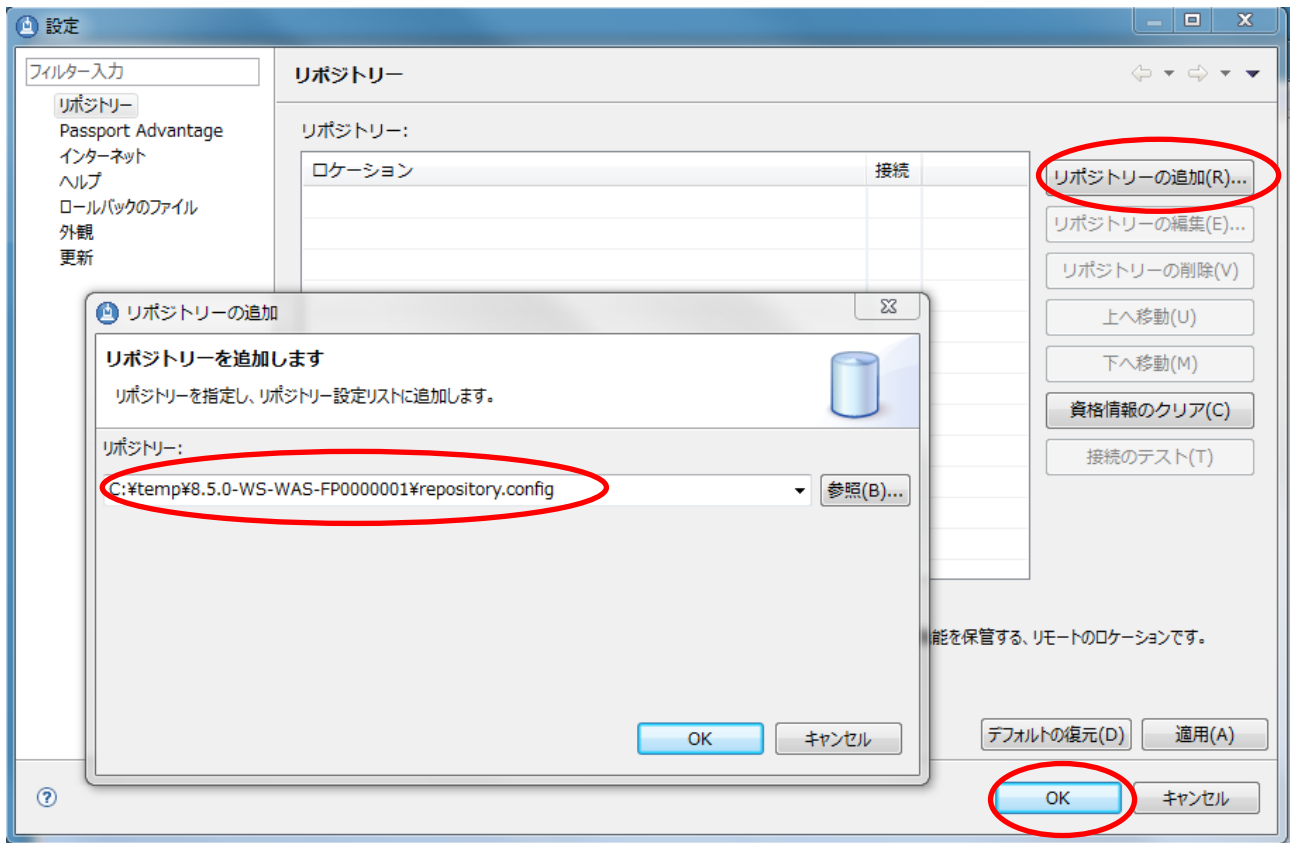
```
> cd <IBM Installation Manager のインストール・ディレクトリー>\eclipse  
> IBMIM.exe
```

- 「スタート」>「すべてのプログラム」>「IBM Installation Manager」>「IBM Installation Manager」から起動、またはインストール・ディレクトリーにある exe クリックによる起動も可能です。

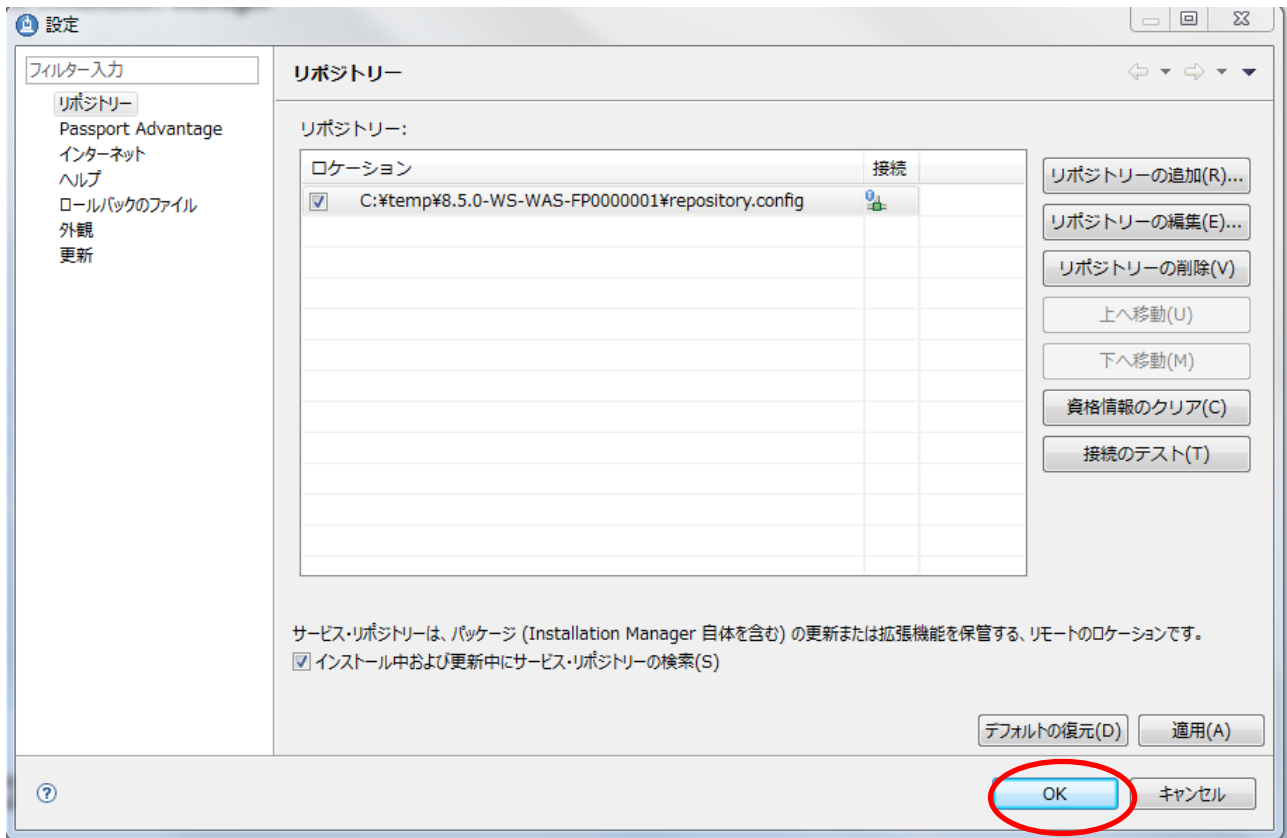
2. Fix Pack のリポジトリを指定します。「設定」をクリックします。



3. リポジトリの追加をクリックし、解凍した Fix Pack 内の repository.config を指定して、OK をクリックします。
WAS 本体および IHS、Web サーバー・プラグインが入った Supplement の Fix Pack のリポジトリもここで指定します。



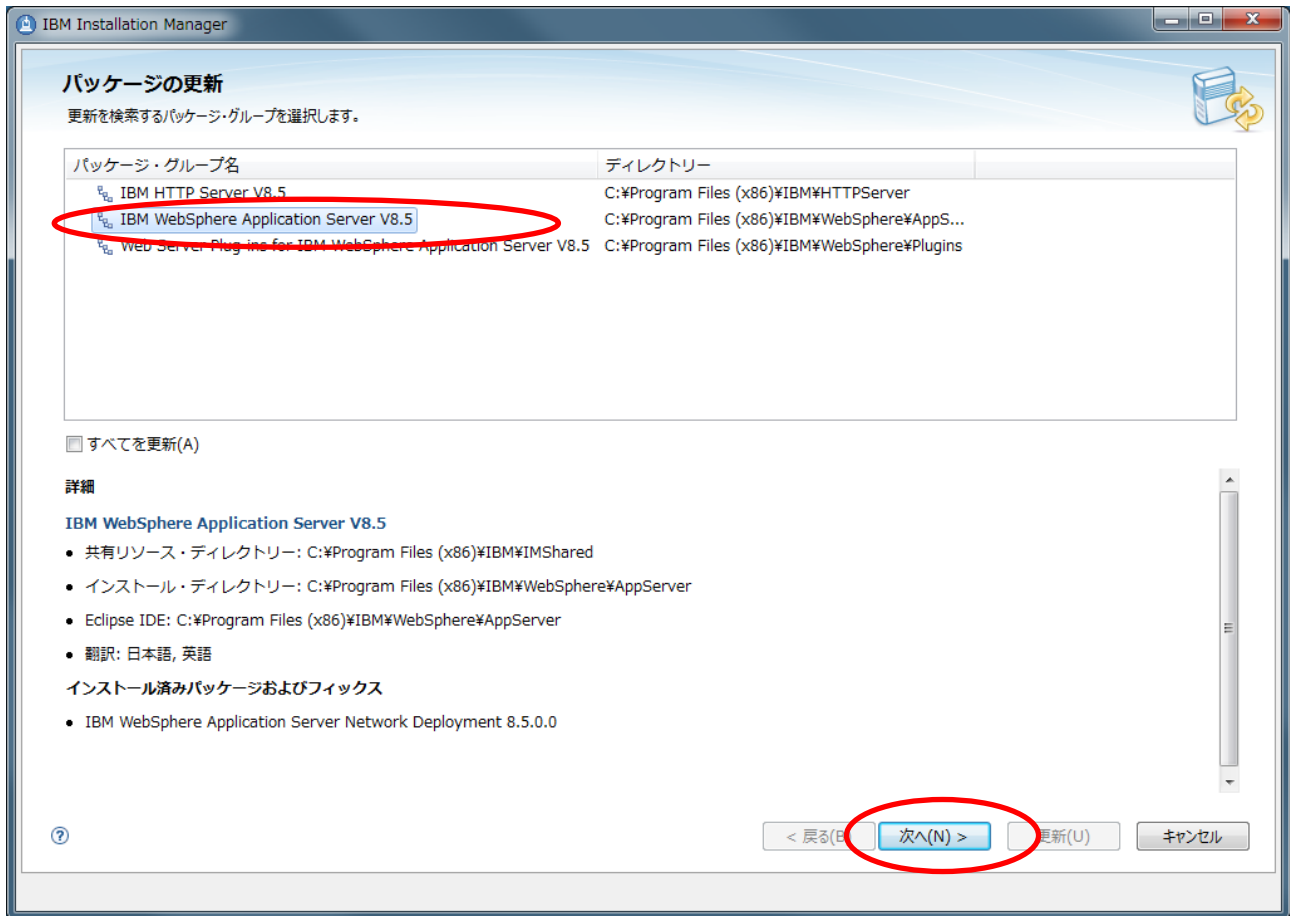
4. 元の画面に戻るので、「OK」をクリックします。



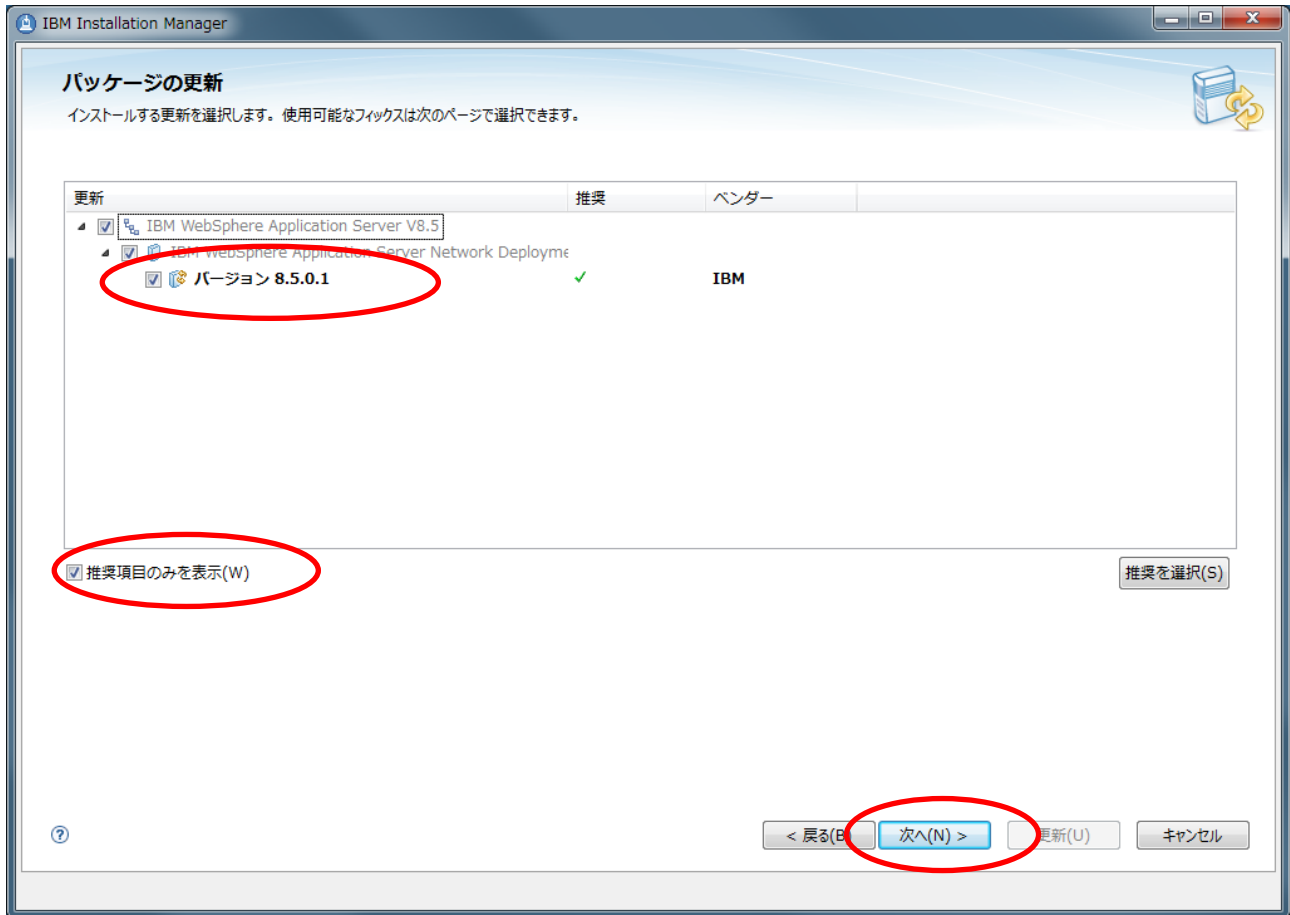
5. 更新をクリックします。



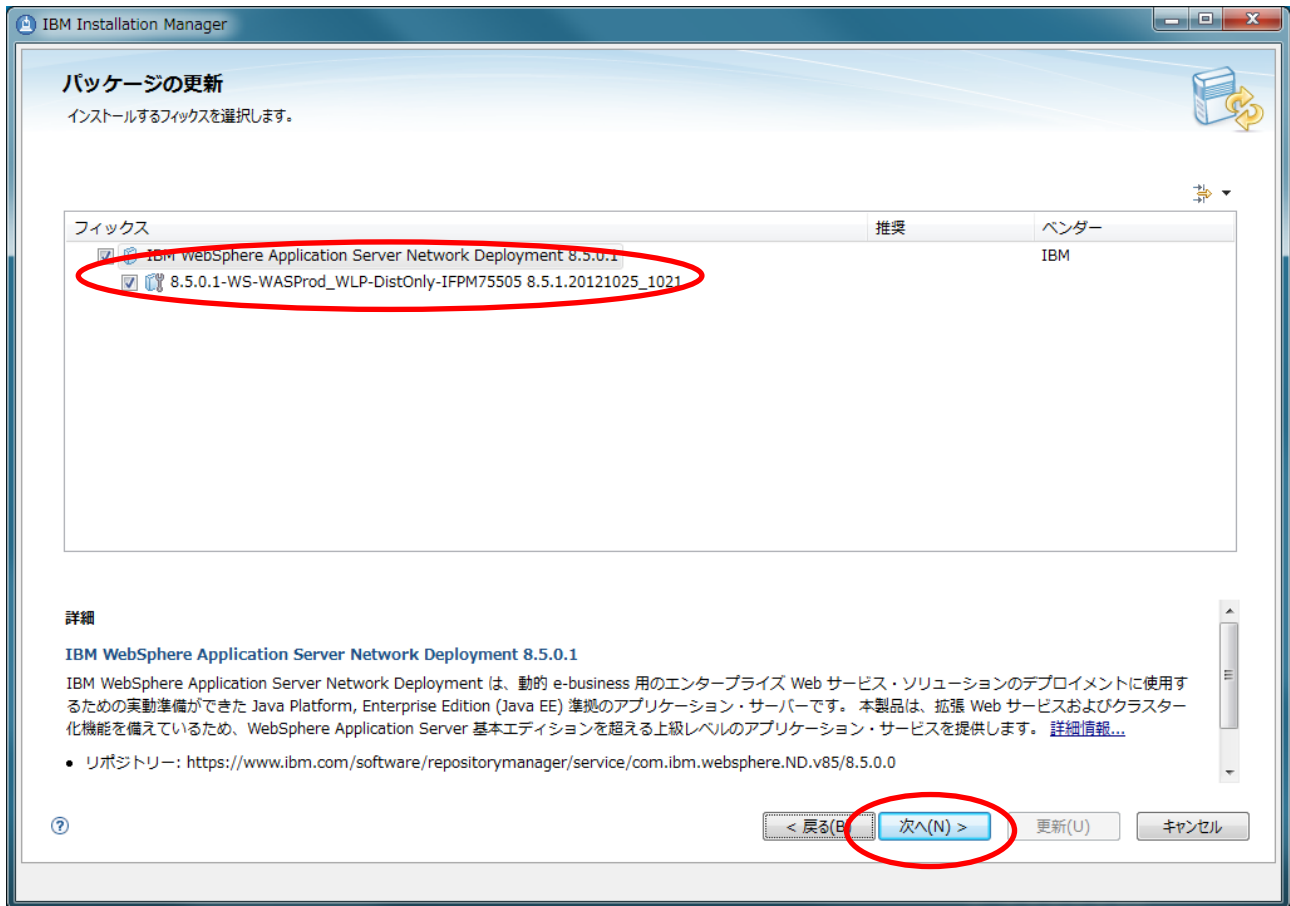
6. 更新するパッケージの一覧が表示されます。「IBM WebSphere Application Server V8.5」または「IBM WebSphere Application Server Network Deployment V8.5」を選択して、「次へ」をクリックします。



7. インストール可能なパッケージが表示されます。「推奨項目のみ表示」のチェックを外すことで現環境に適用可能なすべてのパッケージがリストされます。ここでは、「バージョン 8.5.0.1」を選択して、「次へ」をクリックします。



8. インストール可能な個別 Fix がリストされます。(適用可能な Fix がない場合にはこのページは表示されません)適用したい個別 Fix を選択して、「次へ」をクリックします。



9. 「使用条件の条項に同意します」にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。

IBM Installation Manager

パッケージの更新

以下の使用条件をよくお読みください。

パッケージの更新 更新 ライセンス フィーチャー 要約

プログラムのご使用条件

第1章 - 共通条項

お客様がライセンシー（使用許諾を受けた個人、会社、その他の法人）として本件プログラムをダウンロード、導入、複製、アクセス、「同意」ボタンをクリック、または使用することにより、本「プログラムのご使用条件」（以下「本使用条件」といいます。）に同意したものと見なされます。お客様がライセンシーの代行者として本使用条件に同意する場合、お客様は、ライセンシーに本使用条件を遵守させる全権限を有していることを表明および保証いただくものとします。本使用条件に同意いただけない場合、

- * お客様は、本件プログラムのダウンロード、導入、複製、アクセス、「同意」ボタンのクリック、または使用することなく、かつ
- * 直ちに未使用の記録媒体、文書およびライセンス証書をその調達元に返却することにより、これと引き換えに支払済料金の返金を受けることができます。本件プログラムをダウンロードした場合には、本件プログラムおよびそのすべての複製物を破棄してください。

1. 定義

使用許諾範囲 - ライセンシーが本件プログラムを実行または稼働することを許諾された特定の範囲をいいます。かかる範囲は、ユーザーの数、MSU (Millions of Service Units)、プロセッサ・バリュー・ユニット (以下「PVU」といいます。)、または IBM が特定するその他の使用許諾の範囲により規定されます。

IBM - International Business Machines Corporation またはその子会社をいいます。

ライセンス情報 (以下「LI」といいます。)- 本件プログラムに固有の情報および追加条件を提供する文章をいいます。本件プログラムの LI は、www.ibm.com/software/sla から入手することができます。LI は本件プログラムのディレクトリー内で (システム・コマンドなどを使用して確認します。) または本件プログラムのインストールディレクトリー内で提供される場合があります。

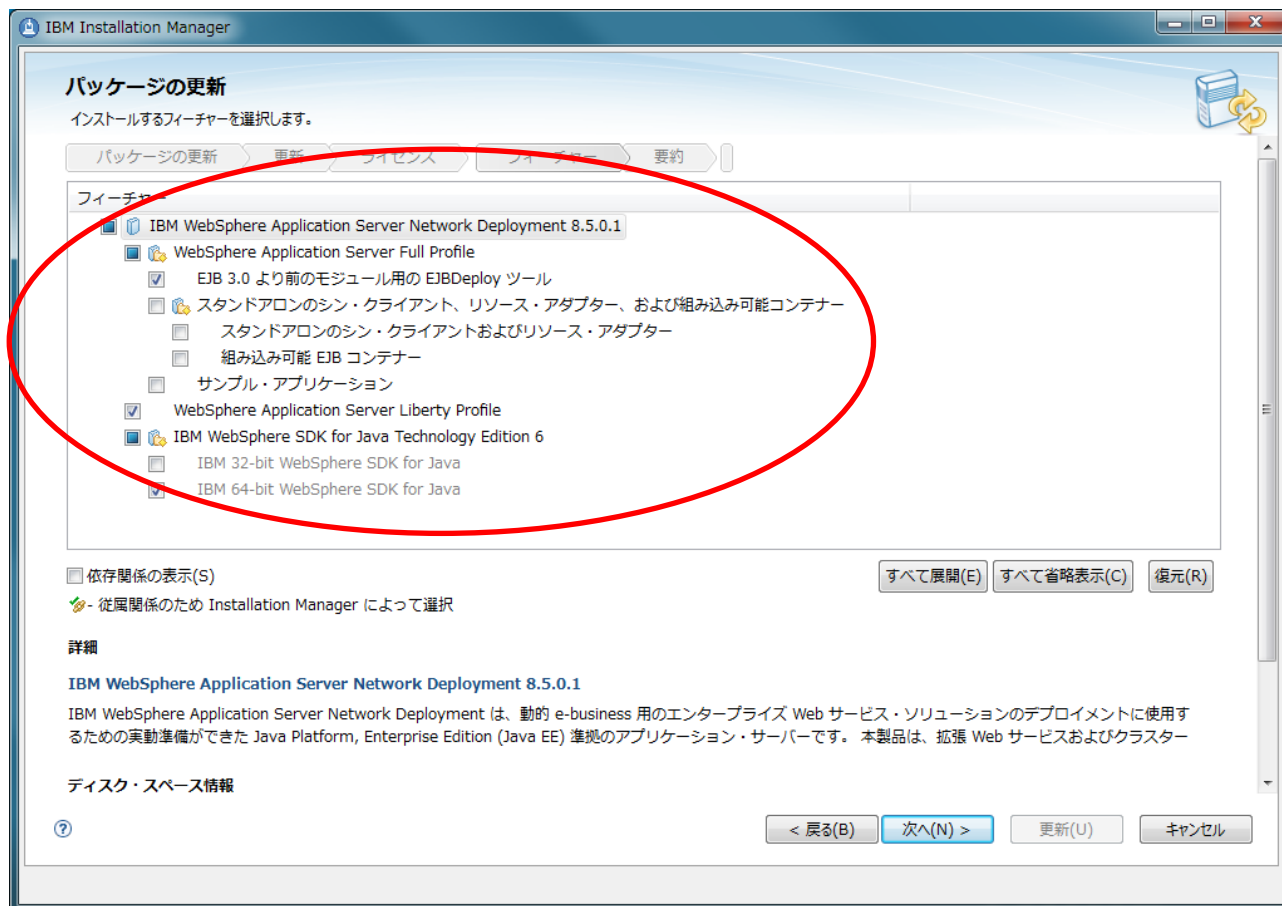
☒ 使用条件の条項に同意します(A)

☐ 使用条件の条項に同意しません(D)

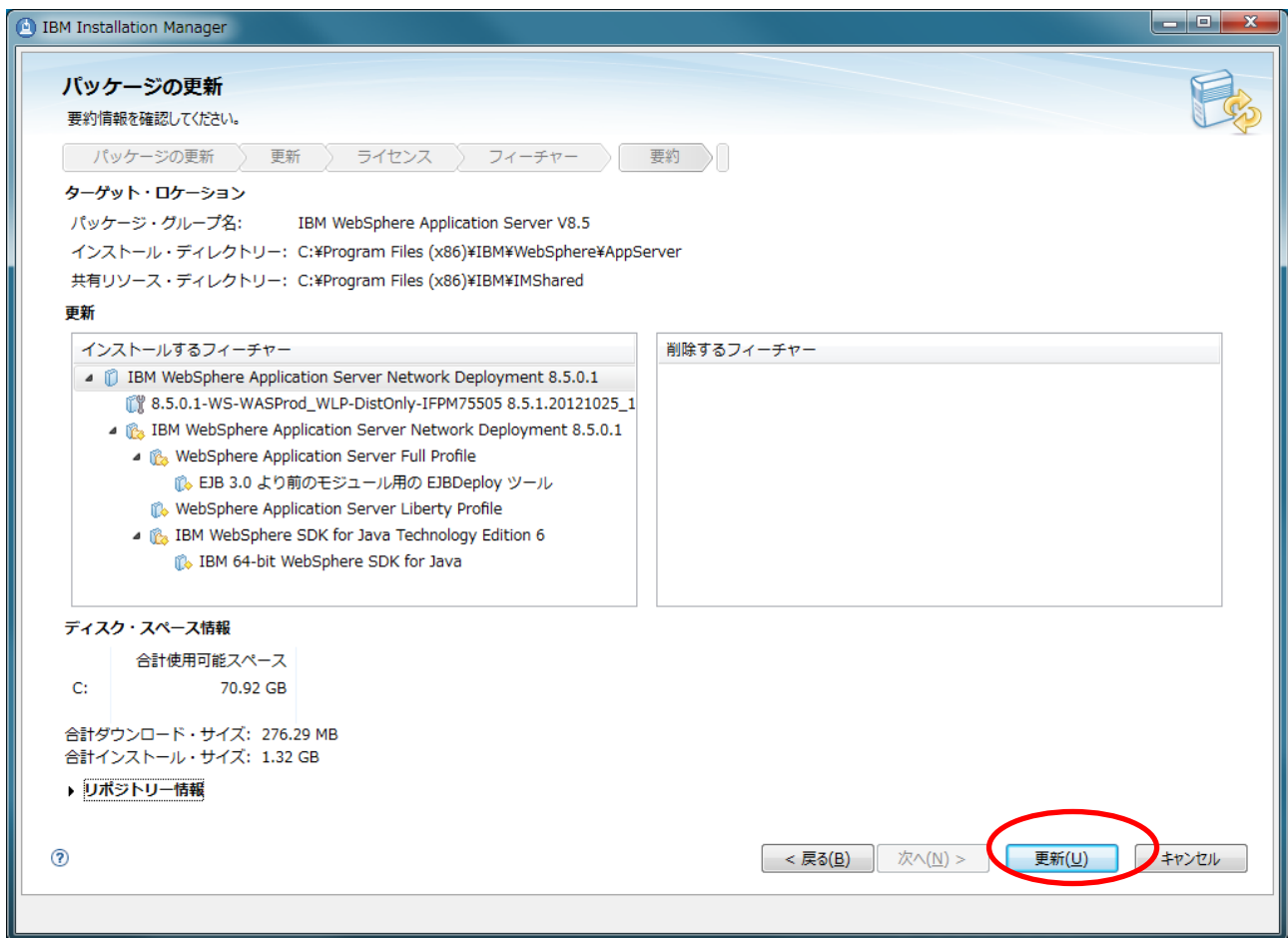
日本語 すべて印刷(P)...

? < 戻る(B) 次へ(N) > 更新(U) キャンセル

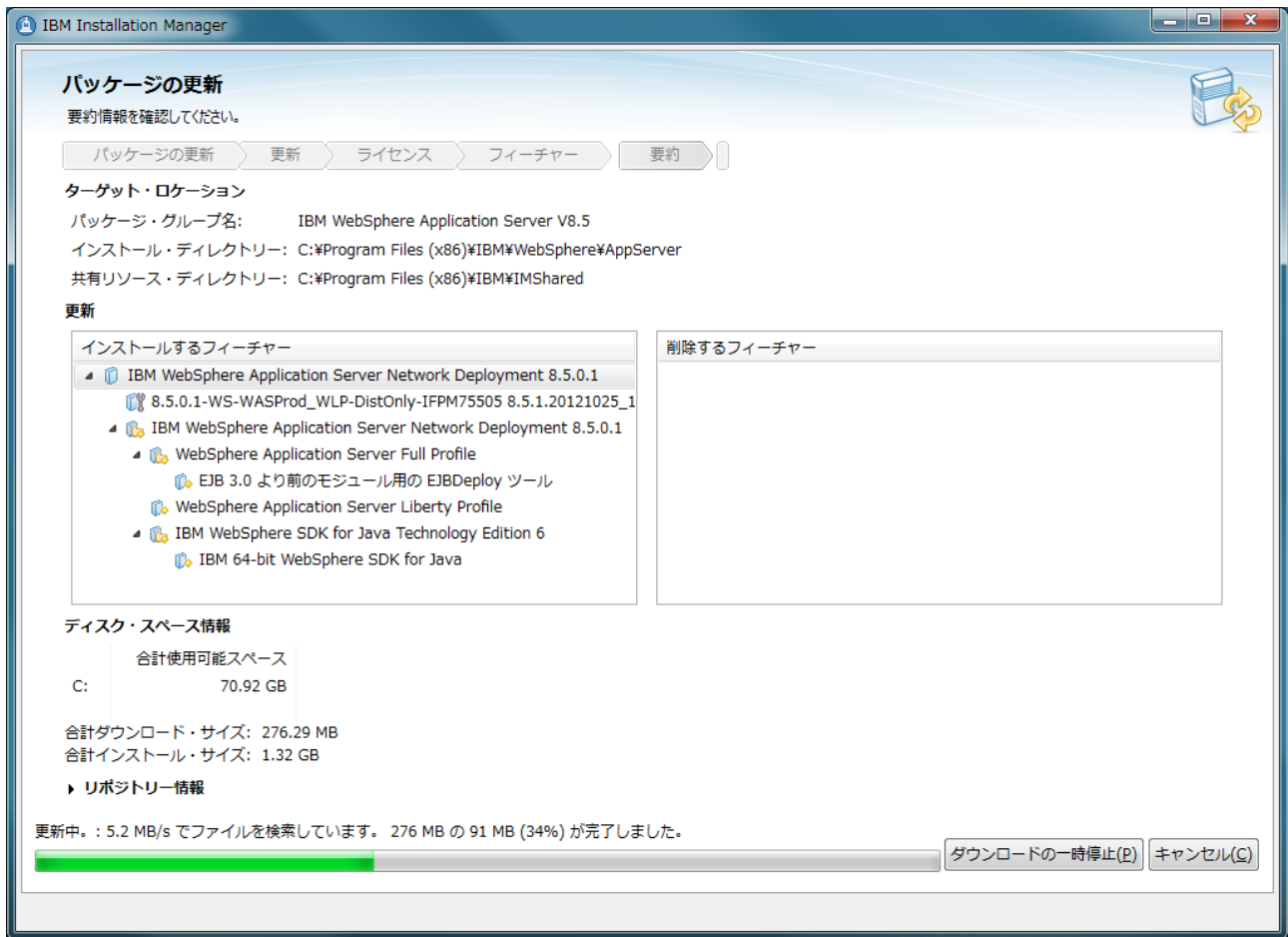
10. Fix Pack を適用するフィーチャーを選択します。インストールされているフィーチャーを選択するなど、環境に合わせてフィーチャーを選択してください。



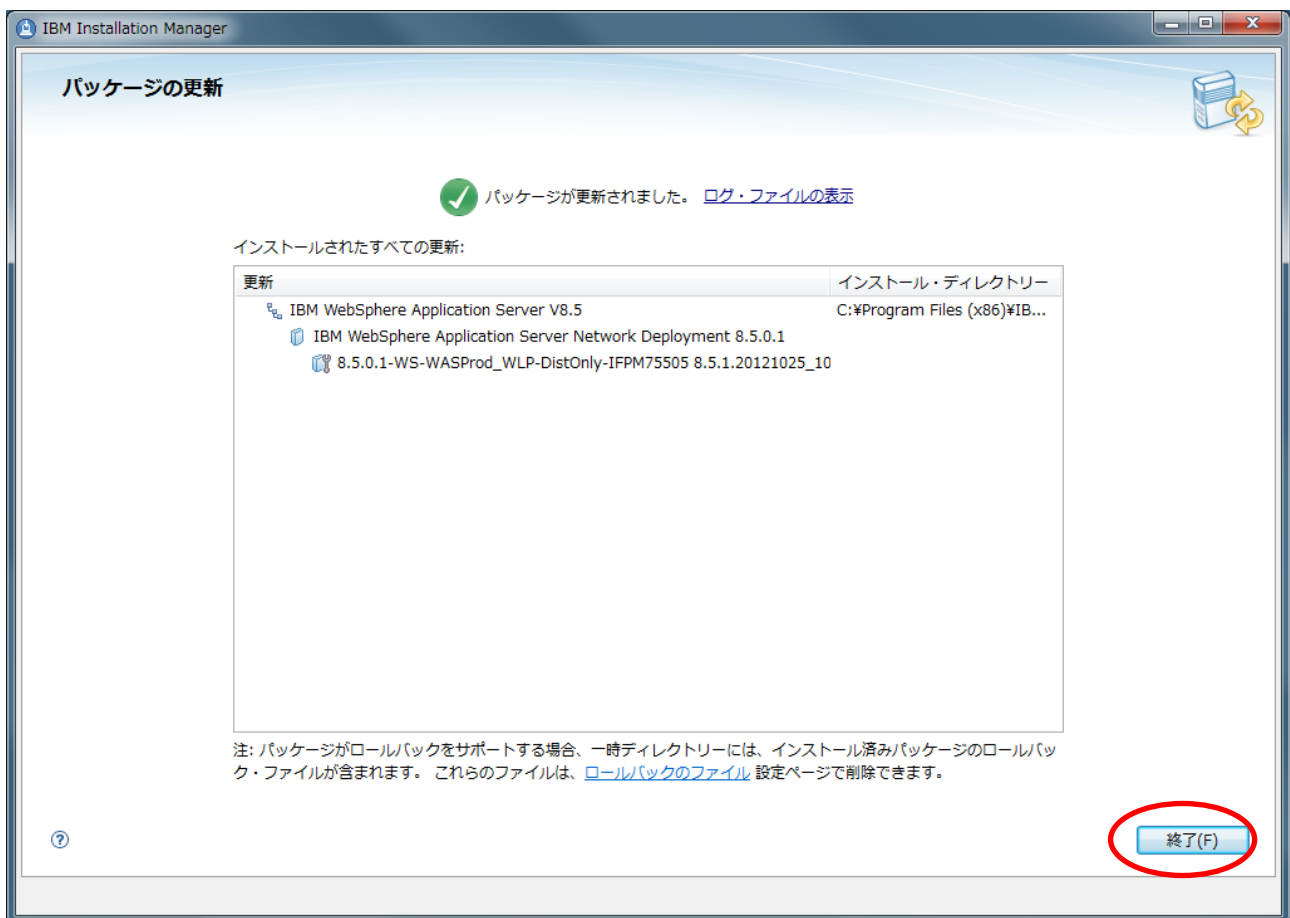
11. 更新内容が表示されます。内容を確認して、「更新」をクリックします。



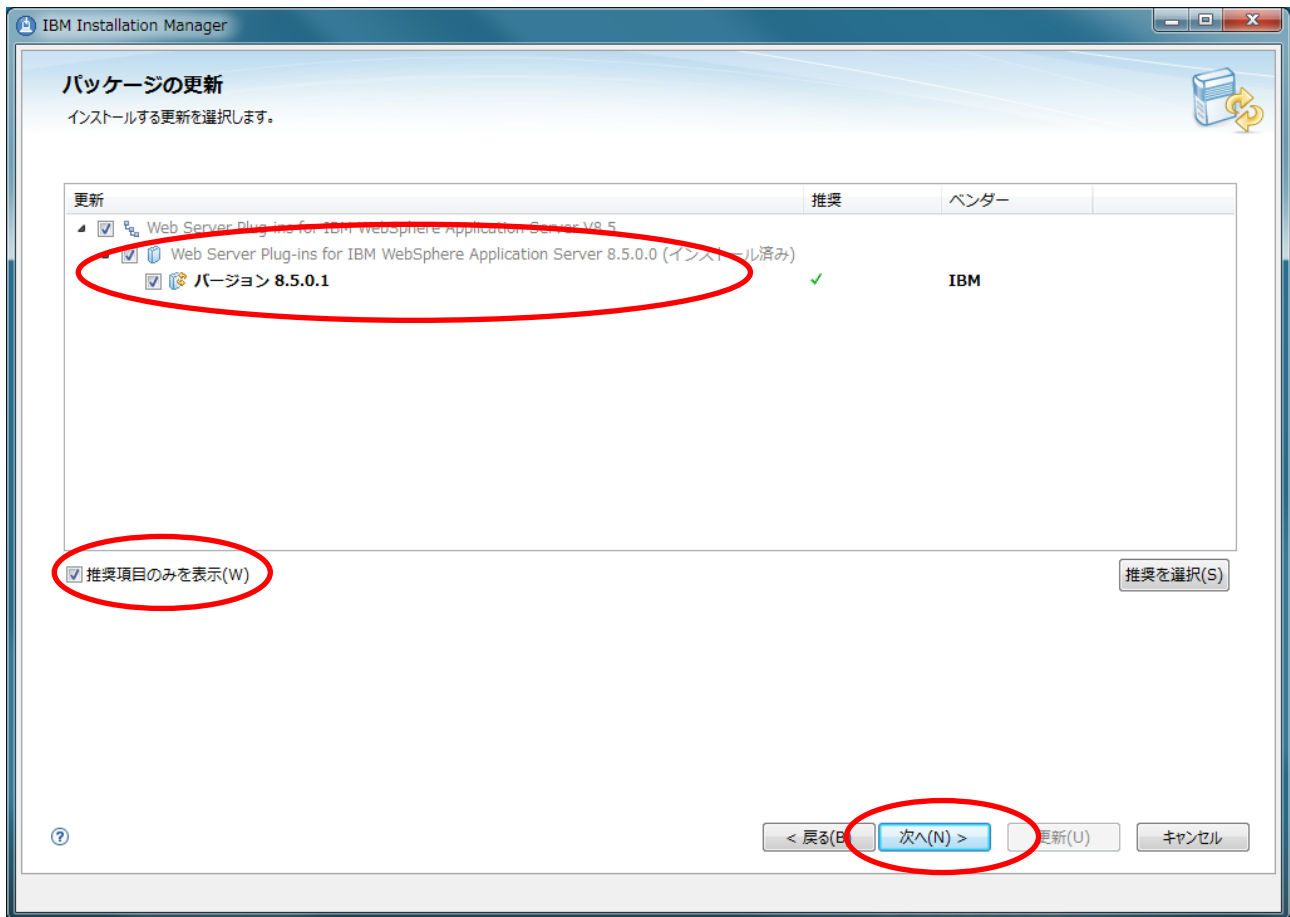
12. Fix Pack の適用が開始されます。



13. WAS への Fix Pack 適用が完了しました。「終了」をクリックします。

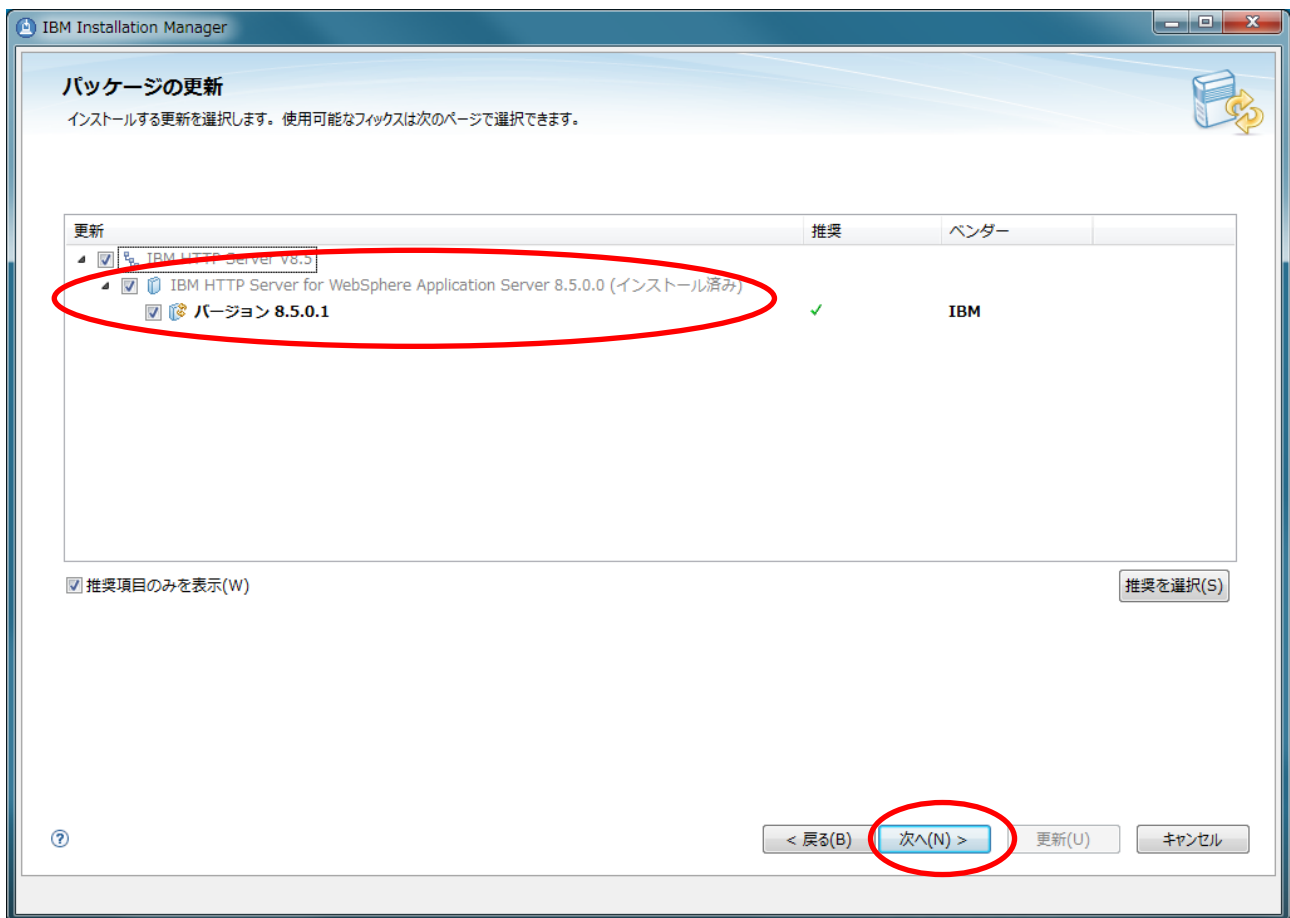


14. Web Server Plug-in が導入されている場合は、別途 Fix Pack を適用します。3 の画面で、「Web Server Plug-ins for IBM WebSphere Application Server 8.5.0.1」を選択して、「次へ」をクリックします。適用したい Fix が表示されない場合には、「推奨項目のみ表示」のチェックをはずした後、ご確認ください。



15. 残りの手順は WAS と同様です。

16. IBM HTTP Server が導入されている場合はそちらにも Fix Pack を適用します。3 の画面で「IBM HTTP Server for WebSphere Application Server 8.5.0.1」を選択して、「次へ」をクリックします。適用したい Fix が表示されない場合には、「推奨項目のみ表示」のチェックをはずした後、ご確認ください。



17. 残りの手順は WAS、Web Server Plug-in と同様です。

以上で、Fix Pack のインストールは完了です。

5. Fix Pack インストール後の確認

V7まではFix Pack適用の際にUpdateInstallerを使用していたため、

<WAS_INSTALL_ROOT>/logs/update/<package_name>/update.logにログが出力され"INSTCONFSUCCESS"などの出力によって、適用成否を確認できました。

しかし、V8からはFix Pack適用の際にIBM Installation Managerを使用するようになったため、Fix Pack適用の際のログはWAS側に出力されず全てIBM Installation Manager側に出力されるようになっています。

下記に、WAS V8.5 での Fix Pack 適用成否の確認方法をご紹介します。

1. コマンドから確認する方法

./versionInfo.bat

2. ファイルから確認する方法

- インストール済みの製品一覧
<IM_DATA_ROOT>/installed.xml
- インストール履歴
<IM_DATA_ROOT>/histories/製品名/history.xml

● WAS のバージョン確認の例

<WAS_ROOT>%bin%versionInfo.bat あるいは versionInfo.sh を実行し、Fix レベルを含めたバージョンを確認します。

- versionInfo.bat(sh)の実行結果例（V8.5 に Fix Pack1 をインストールした例）

製品リスト	

ND	インストール済み
インストール済み製品	

名前	IBM WebSphere Application Server Network Deployment
バージョン	8.5.0.1
ID	ND
ビルド・レベル	cf011242.02
ビルド日	10/17/12
パッケージ	com.ibm.websphere.ND.v85_8.5.1.20121017_1724
アーキテクチャー	x86-64 (64 bit)
インストール済みフィーチャー	IBM 64-bit WebSphere SDK for Java WebSphere Application Server Full Profile EJB 3.0 より前のモジュール用の EJBDeploy ツール WebSphere Application Server Liberty Profile
オプションの言語	日本語

インストール状況レポートの終了	

インストールしたFix Packが適用され、“インストール済み製品”の“バージョン”が更新されていれば正しくインストールされています。

● IHSのバージョン確認の例

<IHS_ROOT>%bin%versionInfo.bat あるいは versionInfo.shを実行し、Fixレベルを含めたバージョンを確認します。

またはApacheコマンドから確認することもできます。

■ Unix の場合

```
# <IHS_ROOT>/bin  
# ./apachectl -v
```

■ Windows の場合

```
> <IHS_ROOT>/bin  
>httpd.exe -v
```

■ Linux の場合

```
#<IHS_ROOT>/bin  
# ./httpd -v
```

● versionInfo.bat(sh)の実行結果例（V8.5にFix Pack1をインストールした例）

製品リスト

IHS	インストール済み
インストール済み製品	

名前	IBM HTTP Server for WebSphere Application Server
バージョン	8.5.0.1
ID	IHS
ビルド・レベル	cf011242.02
ビルド日	10/17/12
パッケージ	com.ibm.websphere.IHS.v85_8.5.1.20121017_1724
アーキテクチャー	x86 (32 bit)
インストール済みフィーチャー	IBM HTTP Server 32-bit with Java バージョン 6 コア・ランタイム

インストール状況レポートの終了	

インストールした Fix Pack が適用され、“インストール済み製品”の“バージョン”が更新されていれば正しくインストールされています。

● Plug-inのバージョン確認の例

<Plugin_ROOT>%bin%versionInfo.bat あるいは versionInfo.shを実行し、Fixレベルを含めたバージョンを確認します。

● versionInfo.bat(sh)の実行結果例（V8.5にFix Pack1をインストールした例）

製品リスト	

PLG	インストール済み
インストール済み製品	

名前	Web Server Plug-ins for IBM WebSphere Application Server
バージョン	8.5.0.1
ID	PLG
ビルド・レベル	cf011242.02
ビルド日	10/17/12
パッケージ	com.ibm.websphere.PLG.v85_8.5.1.20121017_1724
アーキテクチャー	x86-64 (64 bit)
インストール済みフィーチャー	IBM 64-bit WebSphere Runtime Environment for Java
コア・ランタイム	

インストール状況レポートの終了	

インストールしたFix Packが適用され、“インストール済み製品”の“バージョン”が更新されていれば正しくインストールされています。

● インストール済みの製品一覧の例

<IM_DATA_ROOT>/installed.xml を開きます。

下記から「バージョン8.5.0.1」がインストールされていることが分かります。

IBM Installation Manager - インストール済みオフライン

IBM® Installation Manager バージョン 1.6.0 (1.6.0.20120831_1216)

インストール・ディレクトリ: C:\Program Files (x86)\IBM\Installation Manager\eclipse

共有リソース・ディレクトリ: C:\Program Files (x86)\IBM\IMShared

パッケージ・グループ名: **IBM HTTP Server V8.5**
パッケージ・グループ・インストール・ディレクトリ: C:\Program Files (x86)\IBM\HTTPServer
パッケージ・グループ Eclipse IDE: C:\Program Files (x86)\IBM\HTTPServer
パッケージ・グループの翻訳: en
パッケージ・グループのアーキテクチャー: 32ビット

パッケージ	フィーチャー
IBM HTTP Server for WebSphere Application Server Version 8.5.0.1 (8.5.1.20121017_1724) リポジトリ https://www.ibm.com/software/repositorymanager/service/com.ibm.websphere.IHS.v85/8.5.0.0	◦ IBM HTTP Server 32-bit with Java バージョン 6

● インストール履歴の例

<IM_DATA_ROOT>/histories/IBM WebSphere Application Server Network Deployment v8.5/history.xml
を開きます。

下記から、11月19日にFix Packのインストールが正常に完了したことが確認できます。

インストール・ヒストリー

開始時刻	終了時刻	アクティビティ	ステータス	パッケージ	フィーチャー ID
2012-11-06T18:31:43+09:00	2012-11-06T18:43:07+09:00	install	SUCCESS	com.ibm.websphere.ND.v85_8.5.0.20120501_1108	WebSphere Application Server Full Profile,EJB 3.0 より前のモジュール用の EJBDeploy ツール,スタンドアロンのシン・クライアントおよびリソース・アダプター,組み込み可能 EJB コンテナ,IBM 64-bit WebSphere SDK for Java,WebSphere Application Server Liberty Profile,サンプル・アプリケーション
2012-11-19T11:57:01+09:00	2012-11-19T11:59:39+09:00	update	SUCCESS	from com.ibm.websphere.ND.v85_8.5.0.20120501_1108 to com.ibm.websphere.ND.v85_8.5.1.20121017_1724	

6. Fix Pack のアンインストール

一度適用した Fix Pack は、以下の手順でアンインストールすることができます。WAS V8 からはロールバックという手順を踏むことで以前のバージョンに戻すことができます。Interim Fix、iFix は、アンインストール手順で、アンインストールし、手順はロールバックとほぼ同様です。

●アンインストール時の注意事項

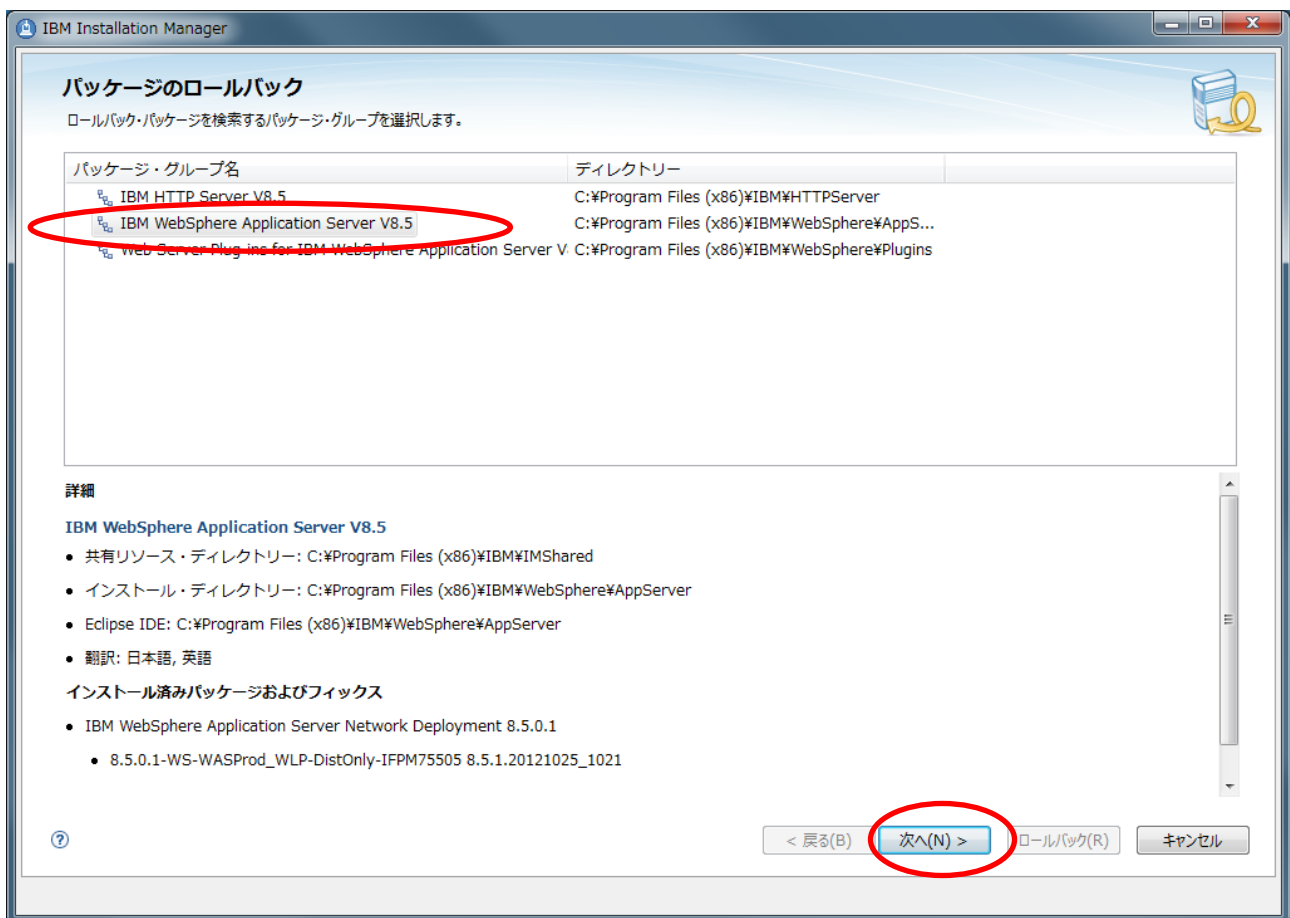
WebSphere Application Server Network Deployment (WAS ND) では、DeploymentManager の Fix レベルが AppServer より高く(新しく)なければなりません。WAS ND を導入されているお客様は、AppServer に適用した修正、DeploymentManager に適用した修正の順でアンインストールを実行して下さい。

また、すべての WAS、IHS が停止していることを確認してください。WAS 以外で稼動している java プロセスについても停止する必要があります。

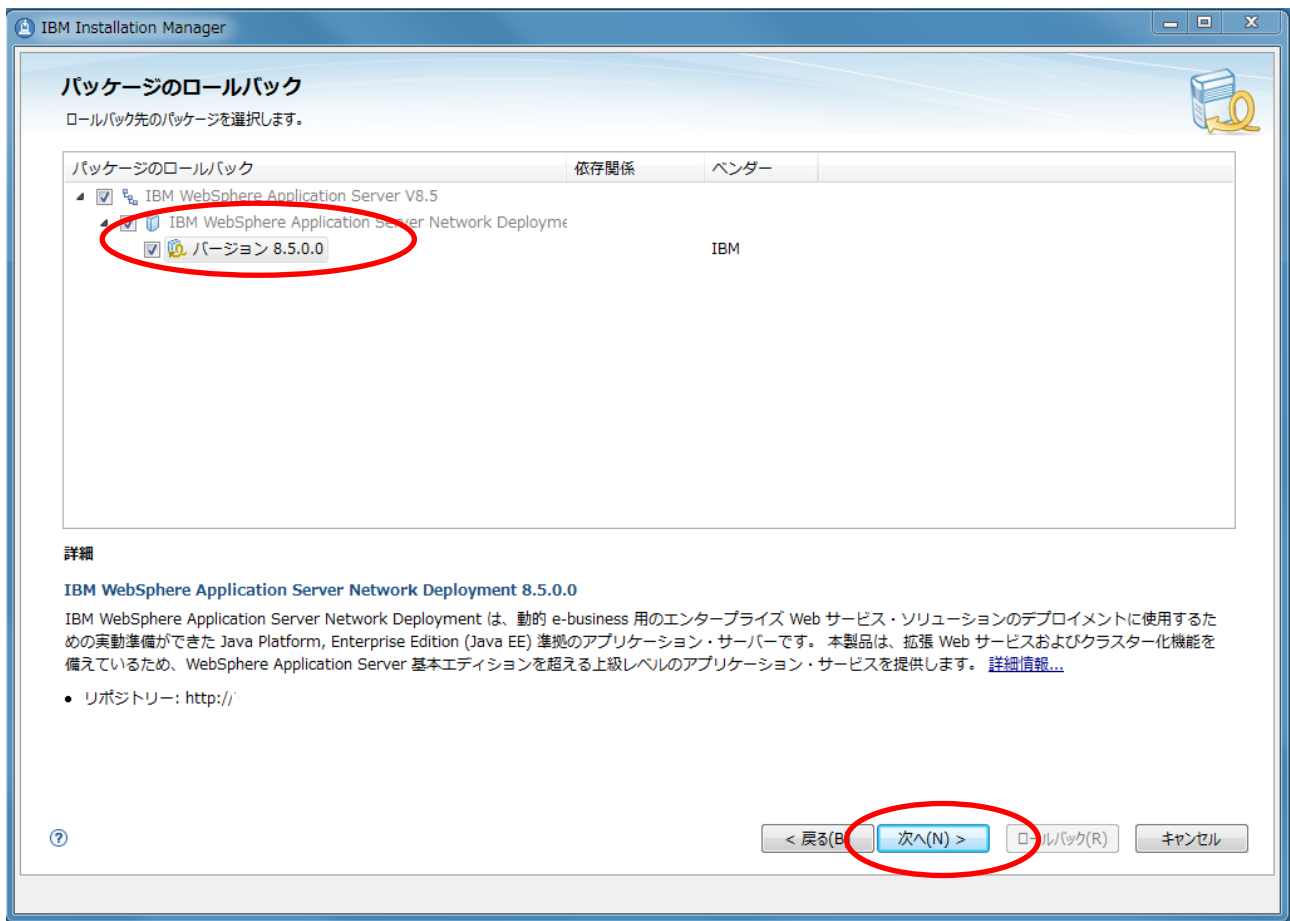
1. IBM Installation Manager を起動し、「ロールバック」をクリックします。



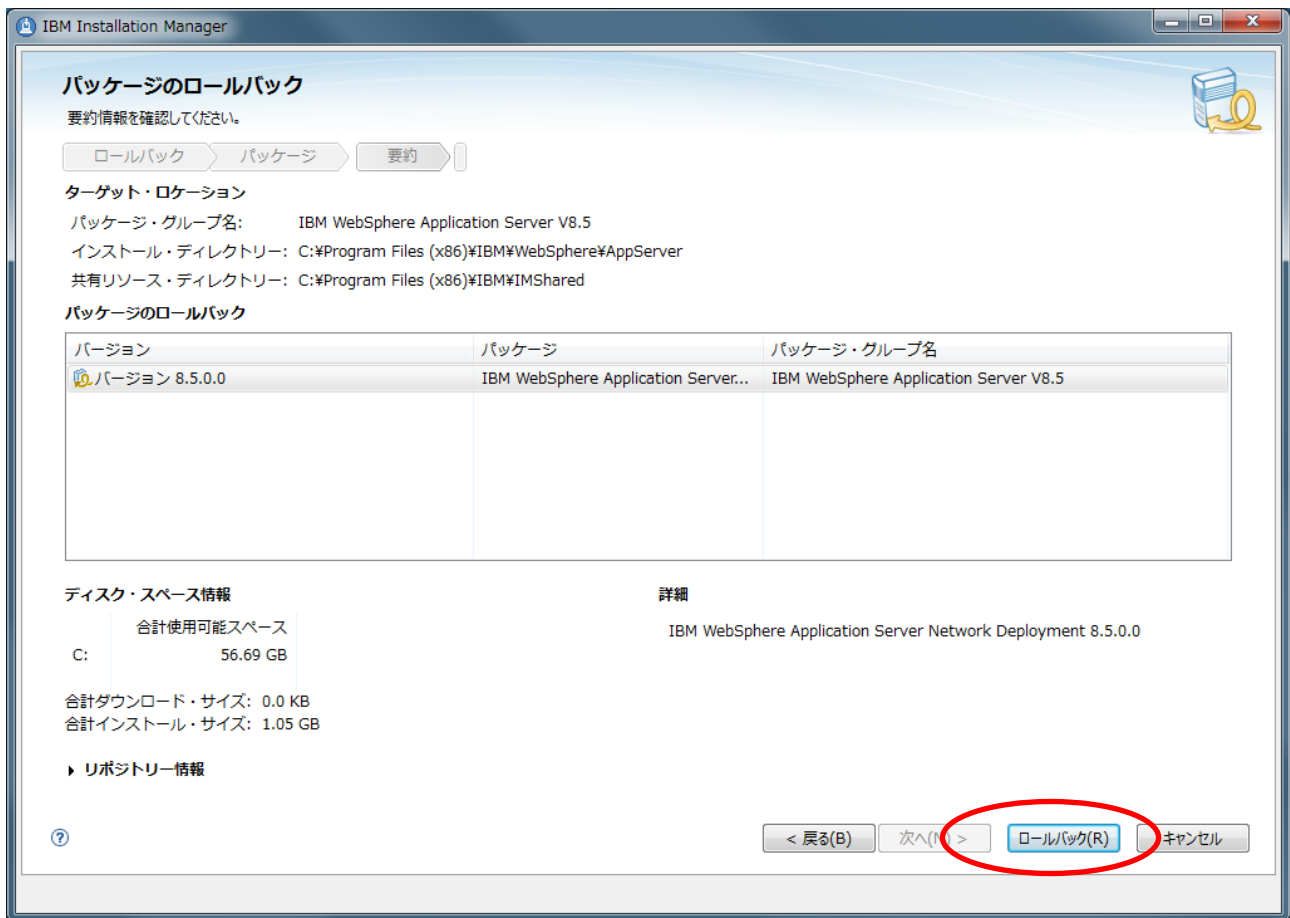
2. ロールバックするコンポーネントを選択し、「次へ」をクリックします。



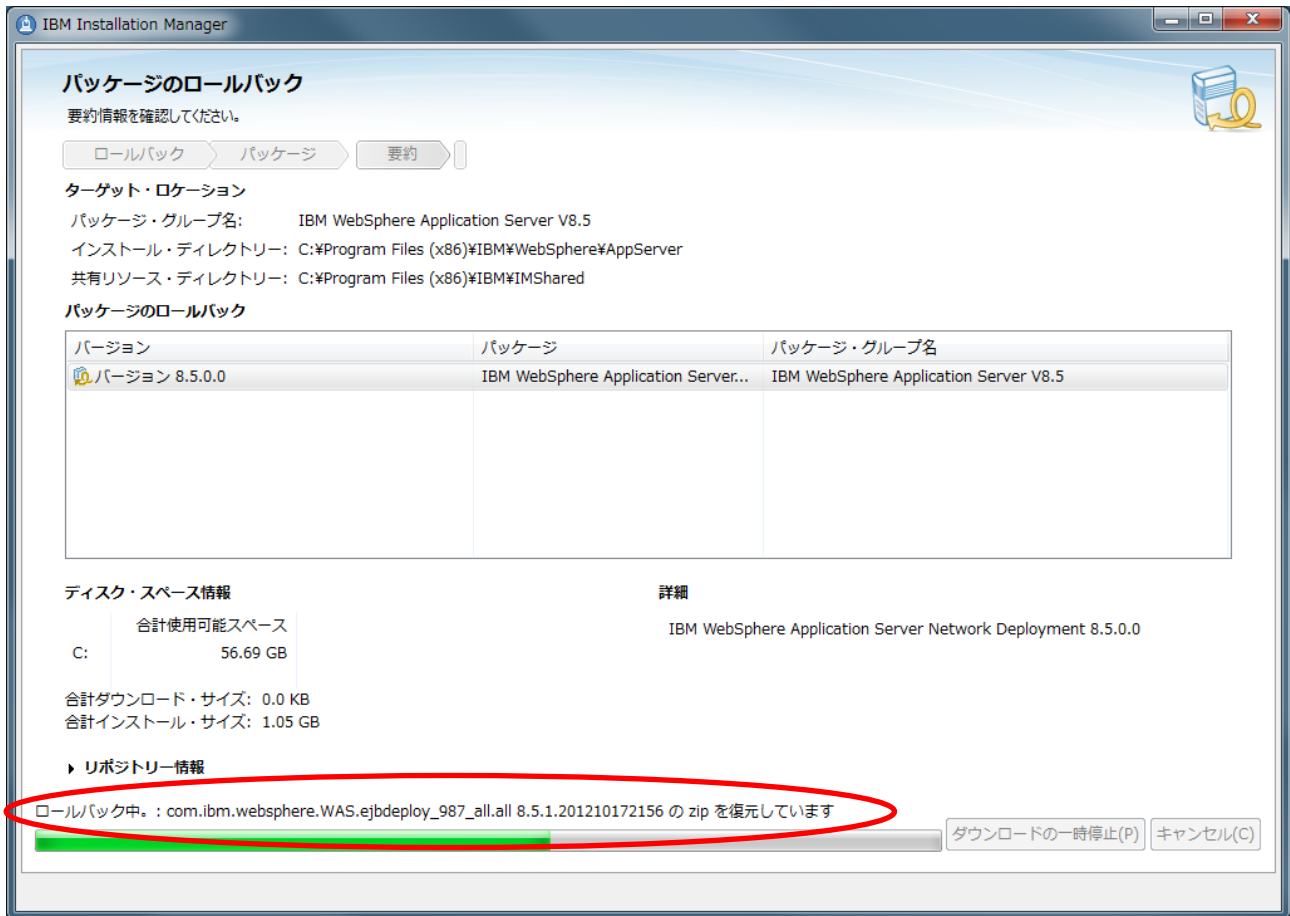
3. ロールバック先のパッケージを選択して、「次へ」をクリックします。



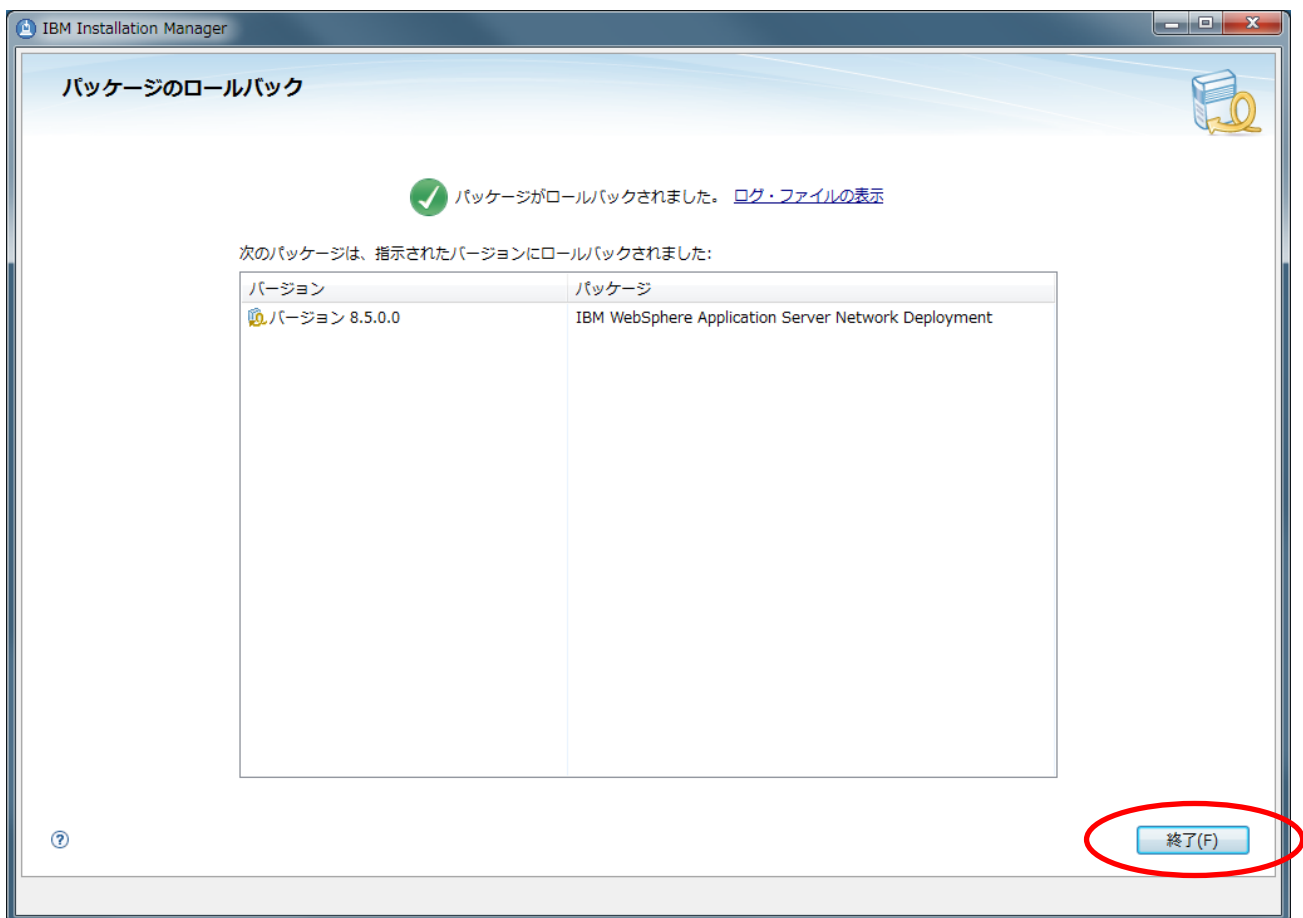
4. 要約画面が表示されます。内容を確認し、誤りがなければ「次へ」をクリックします。ロールバックが開始されます。



5. ロールバック中になります。



6. ロールバックが完了しました。「終了」をクリックします。



以上で、Fix Pack のアンインストールは完了です。

7. Fix Pack アンインストール後の確認

● WAS のバージョン確認方法

手順 5 と同様です。

- versionInfo.bat(sh)の実行結果例（V8.5.0.1 から Fix Pack1 をアンインストールした例）

Fixがアンインストールされ、“インストール済み製品”の“バージョン”が更新されていれば正しくロールバックされています。

インストール済み製品	

名前	IBM WebSphere Application Server Network Deployment
バージョン	8.5.0.0
ID	ND
ビルド・レベル	gm1218.01
ビルド日	5/1/12
パッケージ	com.ibm.websphere.ND.v85_8.5.0.20120501_1108
アーキテクチャー	x86-64 (64 bit)
インストール済みフィーチャー	IBM 64-bit WebSphere SDK for Java WebSphere Application Server Full Profile EJB 3.0 より前のモジュール用の EJBDeploy ツール WebSphere Application Server Liberty Profile
オプションの言語	日本語

インストール状況レポートの終了	

Fix Packを適用する前のバージョンにロールバックされていれば、正しくアンインストールされています。

● IHSのバージョン確認方法

手順5と同様です。

● Plug-inのバージョン確認方法

手順5と同様です。

● インストール済みの製品一覧の例

<IM_DATA_ROOT>/installed.xml を開きます。

下記から「バージョン 8.5.0.0」にロールバックされたことが分かります。

パッケージ・グループ名:	IBM WebSphere Application Server V8.5
パッケージ・グループ・インストール・ディレクトリ:	C:\Program Files (x86)\IBM\WebSphere\AppServer
パッケージ・グループ Eclipse IDE:	C:\Program Files (x86)\IBM\WebSphere\AppServer
パッケージ・グループの翻訳:	ja,en
パッケージ・グループのアーキテクチャー:	32ビット

パッケージ	フィーチャー
IBM WebSphere Application Server Network Deployment Version 8.5.0.0 (8.5.0.20120501_1108) リポジトリ IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.0 (8.5.0.20120501_1108) リポジトリ	◦ IBM 64-bit WebSphere SDK for Java ◦ EJB 3.0 より前のモジュール用の EJBDeploy ツール ◦ WebSphere Application Server Liberty Profile

● インストール履歴の例

<IM_DATA_ROOT>/histories/IBM WebSphere Application Server Network Deployment v8.5/history.xml
を開きます。

下記から、11 月 19 日に Fix Pack をインストールした後、11 月 21 日にアンインストールが正常に完了したことが確認できます。

インストール・ヒストリー

開始時刻	終了時刻	アクティビティ	ステータス	パッケージ	フィーチャー ID
2012-11-06T18:31:43+09:00	2012-11-06T18:43:07+09:00	install	SUCCESS	com.ibm.websphere.ND.v85_8.5.0.20120501_1108	WebSphere Application Server Full Profile,EJB 3.0 より前のモジュール用の EJBDeploy ツール,スタンドアロンのシン・クライアントおよびリソース・アダプター,組み込み可能 EJB コンテナ,IBM 64-bit WebSphere SDK for Java,WebSphere Application Server Liberty Profile,サンプル・アプリケーション
2012-11-19T11:57:01+09:00	2012-11-19T11:59:39+09:00	update	SUCCESS	from com.ibm.websphere.ND.v85_8.5.0.20120501_1108 to com.ibm.websphere.ND.v85_8.5.1.20121017_1724	
2012-11-21T13:32:19+09:00	2012-11-21T13:35:51+09:00	rollback	SUCCESS	com.ibm.websphere.ND.v85_8.5.0.20120501_1108	